

講義科目名称：社会福祉

授業コード：

英文科目名称：Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
保良 昌徳			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 児童福祉を中心に高齢者や障害者の権利保護・支援体制等について理解する。 3. 現行の社会福祉制度・サービス体系・実施体系等について理解する。 4. 社会福祉・ソーシャルワークの援助技術の実際を、事例等を通して理解する。 5. 最新の社会福祉の状況を理解し、今後の展望について考察する。
授業計画	<p>第1回 大学で社会福祉を学ぶ意義</p> <p>第2回 社会福祉の概念・理念</p> <p>第3回 社会福祉のながれ（海外）</p> <p>第4回 社会福祉のながれ（日本）</p> <p>第5回 社会福祉の法律と制度</p> <p>第6回 社会社会の施策と進め方</p> <p>第7回 当事者運動と権利保障</p> <p>第8回 社会福祉現場の実践例</p> <p>第9回 社会福祉現場の課題とまとめ</p> <p>第10回 福祉現場における主な援助理論</p> <p>第11回 社会福祉の専門性と専門職</p> <p>第12回 地方分権と市町村の役割</p> <p>第13回 社会福祉の最新動向（児童福祉等）</p> <p>第14回 社会福祉の最新動向（高齢者など）</p> <p>第15回 社会福祉の課題と今後の展望</p> <p>第16回 最終試験</p>
授業の概要	①講義は以下の講義計画に基づいて行う。（但し、必要に応じて変更することもある） ②講義では可能な限り質疑を交えて行う。 ③講義ではテキスト・当日資料・スライド等を用る。 ④理解を深めるためレポートや切り抜きを課す。 ⑤現場に触れる課題を課し、理論と実践の関連について理解する。
予習	事前に講義計画を確認し、自分なりに予習し、講義中の質問に備えること。
復習	毎回の講義中に必要事項についての振り返りおよび確認を行うので、復習しておくこと。
テキスト	『国民の福祉と介護の動向』厚生統計協会、2015年（可能な限り購入すること） 『社会福祉小六法』（最新版、出版社は問わない）
参考書	—
評価方法・評価基準	評価は出欠状況・レポート・切り抜き・試験の成績等をもとに総合的に評価する。 期末試験：45% 課題レポート：20% レポート・現場訪問：15% 切り抜き・まとめ：15% 質問への対応：5% その他（授業態度等）：+α
履修上の注意	①レポートは指定日の講義開始前に提出（メールでも可）すること（時間後は受け付けない）。またに無断コピーが発見された場合は評価の対象としない。 ②講義始めて課す「新聞の切り抜き」は指定された方法・まとめ・期限を守ること。 ③試験の補完としてノートの提出を課すので、自分なりにまとめ整理しておくこと。

講義科目名称：教育原理

授業コード：

英文科目名称：Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
喜舎場勤子/糸洲理子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：教育の意義・目的や制度、実践に関する基礎理論について理解する。また、児童福祉との関わりや生涯学習社会の現状と課題についても理解する。</p> <p>思考判断：教育に対する使命感や倫理観を育む。批判的思考力と判断力を養う。</p> <p>関心意欲：教育に関する時事問題に興味を持つ。社会システムの中の学校教育のあり方に関心を持つ。</p> <p>態度：豊かな教育実践を支える基礎的な力を培うと共に、保育者としての人間性を育む。</p>
授業計画	<p>第1回 教育とは</p> <p>第2回 教育の定義と意義・目的</p> <p>第3回 教育と児童福祉</p> <p>第4回 諸外国の教育思想と子ども観</p> <p>第5回 日本の教育思想と子ども観</p> <p>第6回 教育制度</p> <p>第7回 教育法規・教育行政</p> <p>第8回 学校教育・教員に関する制度</p> <p>第9回 教育実践の基礎理論</p> <p>第10回 教育実践の多様な取り組み</p> <p>第11回 学校を取り巻く課題</p> <p>第12回 幼稚園教育要領</p> <p>第13回 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p> <p>第14回 生涯学習社会と教育</p> <p>第15回 諸外国の教育制度</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>教育原理は、幼稚園教諭免許状・保育士資格にかかる講義のため、「保育」も広義の「教育」形態という前提で計画が構成されている。教育の意義・目的や制度を含む、実践に必要な基礎理論について学ぶ。具体的には、教育が社会の中でどのように誕生し営まれてきたのか、歴史的・思想的変遷を通してそのしくみを理解する。また、教育関連法規や現行の教育制度・運営・経営的事項についても理解する。</p>
予習	<p>シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない言葉は調べておくこと。</p>
復習	<p>授業で学んだ箇所の要点を整理し、自分の言葉で説明できるようにする。</p>
テキスト	<p>北野幸子編著 2011 『シードブック 子どもの教育原理』 建帛社</p>
参考書	<p>文部科学省 2008年 『幼稚園教育要領』</p> <p>厚生労働省 2008年 『保育所保育指針』</p> <p>内閣府 2014年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>その他、必要な資料は適宜配布する。</p>
評価方法・評価基準	<p>試験60%、レポート30%、受講態度10%で、総合的に評価する。</p>
履修上の注意	<p>講義形式の授業だが、双方向型の講義を重視しできるだけ発言の機会を設ける。提出物は期限厳守。レポートについては初回講義時に説明予定。</p>

講義科目名称：キリスト教保育

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Christian Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
糸洲 理子・喜舎場 勤子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：キリスト教保育の「世界観」「人間理解」「子ども観」等、基礎的事項を学ぶ。 思考判断：使命感や倫理観を育む。批判的思考力や判断力を養う。 関心意欲：国内外の子どもを取り巻く諸状況に関心を持つ。社会的に弱い立場の人々に関心も持つ。 態度：「隣人愛」「共生」の視点に立った保育実践を支える力を培う。保育者としての人間性を育む。</p>
授業計画	<p>第1回 キリスト教保育とは</p> <p>第2回 聖書の世界観・人間理解</p> <p>第3回 聖書の子ども理解</p> <p>第4回 子ども礼拝①</p> <p>第5回 子ども礼拝②</p> <p>第6回 キリスト教保育指針</p> <p>第7回 隣人としての子ども①</p> <p>第8回 隣人としての子ども②</p> <p>第9回 キリスト教保育の歴史</p> <p>第10回 教会歴とクリスマス（保育行事）</p> <p>第11回 教会歴とイースター（保育行事）</p> <p>第12回 教会歴とペンテコステ（保育行事）</p> <p>第13回 課題発表①</p> <p>第14回 課題発表②</p> <p>第15回 キリスト教保育と平和</p>
授業の概要	<p>キリスト教保育は、日本における創設期から発展の過程において、近代保育を形づくる重要な役割を担い多大な影響を与えてきた。本講義では、聖書に描かれる人間や子どもについて学び、キリスト教保育の根幹である「隣人愛」「共生」について理解する。また、キリスト教保育の重要な部分を占める「子ども礼拝」「保育行事」等の基礎的事項についても学ぶ。</p>
予習	<p>シラバスを確認し、関連する資料等を事前に読んでおくこと。わからない言葉は調べておくこと。</p>
復習	<p>授業で学んだ箇所の要点を整理し、自分の言葉で説明できるようにすること。</p>
テキスト	<p>キリスト教保育連盟 2012（第5版）『新キリスト教保育指針』</p>
参考書	<p>—</p>
評価方法・評価基準	<p>グループ発表60%、課題30%、受講態度10%として、総合的に評価する。</p>
履修上の注意	<p>講義形式の授業だが双方向型の講義を重視して、できるだけ発言の機会を設ける。 提出物は期限厳守。課題については初回講義時に説明予定。</p>

講義科目名称：発達心理学 I

授業コード：

英文科目名称：Developmental Psychology I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
大城りえ・池田尚子			

授業のテーマ及び到達目標	子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。さらに、初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、発達心理学を学ぶ意義</p> <p>第2回 生涯発達と発達援助</p> <p>第3回 胎児期の発達</p> <p>第4回 新生児期の発達</p> <p>第5回 乳幼児期：身体的機能と運動機能の発達</p> <p>第6回 乳幼児期：知覚の発達</p> <p>第7回 乳幼児期：認知の発達および学習過程</p> <p>第8回 乳幼児期：感情の発達と自我</p> <p>第9回 乳幼児期：ことばの発達と社会性</p> <p>第10回 乳幼児期：基本的信頼感の獲得</p> <p>第11回 乳幼児期：他者とのかかわり</p> <p>第12回 乳幼児期：社会的相互作用</p> <p>第13回 乳幼児期：遊びの発達</p> <p>第14回 障がいのある子どもたちの発達理解</p> <p>第15回 障がいのある子どもたちへの支援</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	乳幼児の発達的特点を学び、保育者に求められるかかわりを理解する。さらに、障がいのある子どもたちの発達を理解し、支援の方法を学ぶ。
予習	テキストの該当箇所を事前に読むこと
復習	講義で学んだ箇所を読み、講義内容の理解に努めること
テキスト	新保育士養成講座編纂委員会（編）新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学 全国社会福祉協議会 その他担当者が準備する。
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
評価方法・評価基準	期末試験50%、授業内レポート（毎時間提出）35%、授業態度15%
履修上の注意	予習・復習をしっかり行い、保育の基礎である子どもの発達の理解に努めるため、授業中에서도積極的に質問を行うこと。

講義科目名称：健康指導法

授業コード：

英文科目名称：Health Education Methodology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
宮城圭子・山城真紀子			

授業のテーマ及び到達目標	保育内容としての「健康」について理論と実際を理解する。
授業計画	<p>第1回 学習計画</p> <p>第2回 子どもと健康</p> <p>第3回 子どもの健康問題の時代推移と課題</p> <p>第4回 心身の健康に関する領域「健康」（保育所保育指針・幼稚園教育要領）</p> <p>第5回 子どもの身体にかかわる発達</p> <p>第6回 運動遊びの意義について</p> <p>第7回 運動遊びの展開</p> <p>第8回 子どもの基本的生活習慣の獲得過程</p> <p>第9回 基本的生活習慣にかかわる指導の展開</p> <p>第10回 食育の展開</p> <p>第11回 安全習慣・安全管理の指導・展開（1）</p> <p>第12回 安全習慣・安全管理の指導・展開（2）</p> <p>第13回 幼児期の性教育・健康支援者としての保育者の役割</p> <p>第14回 健康保育の実践と評価の視点</p> <p>第15回 保護者啓発</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針「健康」のねらい・内容とその指導の基本を学習する。</p> <p>2. 幼児期の身体発達や運動発達など特性を踏まえて、実際の子どもの活動の姿や指導のあり方について学習する。</p> <p>3. 今日の課題である「基本的生活習慣」、「食育」、「進んで戸外で遊ぶ」について家庭との連携のあり方などを学習する。</p>
予習	テキストを事前によく読み、「子どもの健康」の知識を再確認しておくこと。
復習	授業の際に配布されたレジュメを読み、講義の内容をより理解し、応用できるように努める
テキスト	新・保育内容シリーズ「健康」谷田貝公昭（監修） 一藝社
参考書	特になし
評価方法・評価基準	期末試験60% 授業態度30% 受講者の発表10%
履修上の注意	—

講義科目名称：人間関係指導法

授業コード：

英文科目名称：Teach. Meth. of Hu. Rel. of Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
赤嶺優子・平安名盛孝			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：人とのかかわりに関する領域「人間関係」の目標やねらい内容について理解をする。 関心意欲：子ども理解を深めながら、領域「人間関係」のねらいと内容について具体的に学ぶ。 思考判断力：領域「人間関係」の内容と子どもの生活と遊びについて関連性を持たせて理解する。 態度：保育の専門知識を深めていこうとする姿勢を持つ。
授業計画	<p>第1回 「人間関係」の意義・乳幼児期の発達と人間関係</p> <p>第2回 子どもと共に生活する</p> <p>第3回 ビデオ視聴「人間関係のはじまり」</p> <p>第4回 「人間関係」の目標とねらい</p> <p>第5回 「人間関係」のねらいと内容 ①</p> <p>第6回 「人間関係」のねらいと内容 ②</p> <p>第7回 「人間関係」のねらいと内容 ③</p> <p>第8回 「人間関係」のねらいと内容 ④</p> <p>第9回 ビデオ視聴「葛藤体験について」討議</p> <p>第10回 「人間関係」の内容の取り扱い ①</p> <p>第11回 「人間関係」の内容の取り扱い ②</p> <p>第12回 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>第13回 人と育ちあう関係をつくる</p> <p>第14回 人とのかかわりにおける共同性・社会生活との関わり</p> <p>第15回 「保育現場」の求める保育者の専門性</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」の目標やねらい内容等を理解する。領域「人間関係」のねらい、内容と子どもの発達と生活や遊びと関連付けて保育の全体的な構造について理解を深める。また、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育が一体となっていることを理解する。子どもの発達を理解しながら、人とのかかわりを育てる保育や保育者の役割について学びを深める。
予習	目標とねらい、内容、内容の取扱い等は、保育所指針や幼稚園教育要領を用いて事前学習をすること。
復習	授業終了後の学びや課題を明確にし、授業計画内容の理解を深めること。
テキスト	清水陽子編著『保育者を育てる保育の理論と実践』ミネルヴァ書房
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』・全国社会福祉協議会『幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む』
評価方法・評価基準	試験60%、課題・発表等40%で総合的に評価する。
履修上の注意	4回目以降、学校教育法二十二条二および、ねらいや内容等について予習した内容の発表を課す。

講義科目名称：環境指導法

授業コード：

英文科目名称：Nat. and So. Env. Edu. Meth.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
照屋 建太			

授業のテーマ及び到達目標	保育における環境の意義について学ぶ。人との話し合いを通して他人の考え方を身につけ、理解する。数・量・形の指導方法についても考え、学習する。学生自身、自ら自然に親しむ。沖縄の自然についても学び、保育活動に取り入れる方法を自ら考える。		
授業計画	第1回	講義概要説明、幼児の保育環境や生活環境を考える	
	第2回	グループ学習①（環境観察）	
	第3回	幼児と環境のかかわり	
	第4回	保育の基本と領域「環境」の位置づけ・領域「環境」における指導の観点	
	第5回	好奇心・探究心のはぐくみ	
	第6回	人的環境としての仲間・保育者とのかかわり	
	第7回	物的環境としての室内環境・物的環境としての屋外環境	
	第8回	子どもの安全環境・子どもと情報環境	
	第9回	飼育動物のかかわりと保育・栽培植物のかかわりと保育	
	第10回	DVD学習	
	第11回	年間行事について	
	第12回	ビオトープについて	
	第13回	グループ学習②（身近な植物の特徴を知る）	
	第14回	自然とのかかわりと保育・地域社会とのかかわりと保育	
	第15回	好奇心や探究心を持って、生活に取り入れ展開にする保育について	
授業の概要	この講義では、保育内容領域の「環境」を中心にその意義・内容について学ぶ。また、周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。さらに、環境について意図的に考え、計画的にすること学ぶ。		
予習	講義前にテキストを読み、大切な部分は各自で確認すること。		
復習	講義後は、授業内容について把握し、次回までに復習し、課関連科目との関連性を理解すること。		
テキスト	嶋崎博嗣ほか『保育士養成のための必須科目シリーズ保育内容（環境）』一藝社 その他、必要に応じてプリントを配る。		
参考書	沖縄生物教育研究会編『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書 その他、必要に応じて紹介する。		
評価方法・評価基準	講義のまとめ課題および授業中に出すレポート課題および受講態度による総合評価 総合評価（成績）＝講義のまとめ課題（50％）＋レポート課題（20％）＋受講態度（30％）		
履修上の注意	課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。 欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定しレポート（1200字）を提出すること。		

講義科目名称：言葉指導法

授業コード：

英文科目名称：Teach. Meth. of Children's Sp. Dev.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
今 秀子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：豊かな言葉を育む保育者の役割について説明できる。 思考判断：言葉と保育の展開（発達及び幼児理解）について事例を通して指摘できる 関心意欲：児童文化財の特徴、役割について理解し意欲的に実践に向けて取り組む。 態 度：自ら感性を磨き言葉による表現力を身につける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・授業内容・方法・実技・課題等の共通理解</p> <p>第2回 保育の基本と領域 「言葉」 保育指針・幼稚園教育要領 のねらいと内容</p> <p>第3回 幼児理解と言葉 ・ 生活の中の言葉</p> <p>第4回 言葉を豊かにする児童文化財・乳幼児の言葉と発達の関わり</p> <p>第5回 ①保育者の言葉と表現と表情・絵本の成り立ちと役割 ・ 取扱い方</p> <p>第6回 ②言葉の発達と絵本 絵本カードとの関わり</p> <p>第7回 ③保育者の読み取りと感性（課題図書 of 感想文提出）</p> <p>第8回 紙芝居の成り立ちと基礎的理解</p> <p>第9回 紙芝居の取り扱いと実演（グループ）発表</p> <p>第10回 発達の中の言葉 ①聞くこと、話すこと、思いの伝え合い</p> <p>第11回 発達の中の言葉 ②思考すること、想像すること</p> <p>第12回 ①音声言語から文字言語へ・生活の中の文字</p> <p>第13回 ②保育と文字の関わり</p> <p>第14回 仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」 ①素材検討・シナリオ作り</p> <p>第15回 仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」 ②グループ発表</p> <p>第16回 まとめ・定期試験</p>
授業の概要	幼児の言葉で学んだ乳幼児の言葉の発達、保育指所保育指針や幼稚園教育要領の「言葉」を踏襲し、幼児の言葉を豊かにする指導の方法や実技等を通して学ぶ。乳幼児理解と言葉は不可分であり、保育の実技において「生活の中の言葉と幼児理解」「具体的な場面や状況に応じた援助の在り方」「幼児の言葉を豊かにする児童文化財」の理解と活用、保育者と言葉の重要性を知り日本語の言葉の美しさや正しさ豊かさを学んでいく。
予習	保育所保育指針・幼稚園教育要領における「言葉」の領域について予備知識をもち授業に臨む。
復習	授業で学んだ箇所を振り返り、幼児の発達と言葉・保育者の関わりを理解する。
テキスト	岡田 明 『新訂』 子どもと「言葉」 萌文書林
参考書	厚生省「保育所保育指針」 文部科学省「幼稚園教育要領」 その他講義で提示
評価方法・評価基準	課題提出（絵本カード30%・感想文5%）、企画と発表（グループ）5%、定期試験60%、 総合評価
履修上の注意	学生としての本分と保育者としての自覚に基づき、自身が豊かな言葉で話せるようにする。 絵本カード作製と提出（必須） グループ活動への参加と発表の取り組み（評価対象になる）

講義科目名称：音楽表現指導法

授業コード：

英文科目名称：Teach. Meth. of Mu. Exp. of Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
大山伸子・奥原友紀乃			

授業のテーマ及び到達目標	音楽表現の基礎技術を修得し、保育現場で活用しうる音楽の教材研究等に意欲を持って取り組めるようにする。
授業計画	<p>第1回 リトミック音楽教育の概要。ボイス・アンサンブル</p> <p>第2回 DVD学習（ダルクロワーズ教育法におけるスイスのリトミック音楽教育の現状）</p> <p>第3回 拍の理解。基礎リズムのリズム打ちとステップ（歩く、走る、スキップ）。ボディー・パーカッション。手遊び・歌遊び</p> <p>第4回 リズムパターンとフレージング。ボディー・パーカッション。手遊び・歌遊び</p> <p>第5回 リズムパターンとポリリズム。ボディー・パーカッション。手遊び・歌遊び</p> <p>第6回 幼児曲を題材にした身体即興表現</p> <p>第7回 イメージによる身体即興表現</p> <p>第8回 拍子感とアナクルーシスについて。カノンの習得</p> <p>第9回 3拍子（簡易楽器やボールを使って）・中間試験</p> <p>第10回 3拍子とカノンの組み合わせ</p> <p>第11回 教材研究①(手遊び歌、幼児曲等を題材にした身体創作表現)</p> <p>第12回 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」における『表現』領域について</p> <p>第13回 教材研究②(テーマに即した題材に基づいて)</p> <p>第14回 教材研究③(合奏表現の発表)</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	身体を通して音楽を感じ、考え、表現するE・J＝ダルクロワーズの「リトミック教育法」に基づいて、音楽表現に必要な技術とその方法論を学ぶ。また、保育現場で活用しうる、手遊び、歌遊び、身体創作表現など、具体的な教材活動を通して、音楽を発展的、総合的に創意工夫できるようにする。
予習	教材の課題を練習し発表する
復習	リズム・フレーズなど、リズムのメトリカルな課題をおさらいし体得する。
テキスト	『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 コピー資料、その他。
参考書	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
評価方法・評価基準	<p>実技テスト及び授業における課題評価</p> <p>① グループ課題による評価—幼児曲を創作表現及び、基礎リズムや拍子感を生かした教材研究</p> <p>② 個人課題による評価—リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、ポリリズム、カノンの実技及びレポート課題</p> <p>③ 授業への参加度—授業においてグループ発表による評価が数回ある</p> <p>④ 授業態度—①④を総合的に評価する。</p> <p>演習20% 受講者の発表25% 授業態度10% 小テスト・授業内レポート20% 中間試験25%</p>
履修上の注意	軽装、室内シューズで受講すること。

講義科目名称：造形指導法

授業コード：

英文科目名称：Teach.Me.of Fo. Art for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、子どもの発達と造形表現に関する知識をふまえ、子どもの遊びと想像力を豊かに展開し、それを表現へと繋げていくために必要な技術を習得することを目標とする。指導案を基に造形活動を体験・経験することで子どもと表現について考え、保育や幼児教育における造形の指導とは何かを実感してもらう事をテーマとする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：造形指導法の目的と内容についてー豊かな体験から広がる造形表現</p> <p>第2回 幼児造形教育の歴史、現在の幼児造形教育の環境ーレッジョ・エミリアアプローチやチルドレンズミュージアムについて</p> <p>第3回 子どもの描画の発達段階についてーV. ローウェンフェルドの発達段階を中心としてー</p> <p>第4回 触覚的アプローチーフィンガーペインティングとボディインティングの意義ー</p> <p>第5回 環境を写し取るーフロッタージュとその具体的展開ー</p> <p>第6回 偶然性の色彩遊び（1）ーデカルコマニーとその心理的側面ー</p> <p>第7回 偶然性の色彩遊び（2）ードリッピングとその具体的展開ー</p> <p>第8回 偶然性の色彩遊び（3）ーバチックとその具体的展開ー</p> <p>第9回 偶然性の色彩遊び（4）ーぬり広げとその具体的展開</p> <p>第10回 音と色彩ーいろいろな音を色彩で表現する</p> <p>第11回 匂いと色彩ー感じた匂いを色彩で表現する</p> <p>第12回 造形表現活動のための部分指導計画についてー立案</p> <p>第13回 造形表現活動のための部分指導計画についてー実践と振り返り</p> <p>第14回 季節を意識した造形表現活動のための部分指導計画についてー立案</p> <p>第15回 季節を意識した造形表現活動のための部分指導計画についてー実践と振り返り</p>
授業の概要	幼児の造形表現に関して、心理学や教育学など様々な分野の研究者の思想や、そこで提唱されてきた実践・方法論などについて学びながら、子どもたちを取り巻く造形表現活動の環境を考える。次に子どもの描画の発達段階について学びながら、ボディペインティングやフロッタージュなどの平面制作を実際に体験し、子どもたちの感性を刺激するような指導案の立案について学び、学生自らが実践し、振り返りを行う。
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。
テキスト	テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領。久富陽子編『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』（萌文書林, 2016）、福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践からー』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）
評価方法・評価基準	演習で制作した作品、それに係る発表、および指導案立案や授業態度を総合し評価。
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物がが必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。

講義科目名称：音楽Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：MusicⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大山 伸子・糸洲 のぶ子・神谷 智子・古謝 麻耶子・津田 涼子・仲松 あかり			

授業のテーマ及び到達目標	保育者として必要な音楽の基礎的技術（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）を習得し、課題曲の終了を目指す。保育現場で音楽の能力が発揮できるよう自己研鑽に努める。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション及びピアノ奏法のウォーミングアップ</p> <p>第2回 『大学ピアノ教本』 No.1～37はグループレッスンで進める。第2回はNo.1～4</p> <p>第3回 『大学ピアノ教本』 No.5. 9. 11、及びハ長調の音階（1オクターヴ）、調名、1度、5度の和音（Ⅰ、Ⅴ）</p> <p>第4回 『大学ピアノ教本』 No.13. 17. 21、及び属7度の和音（Ⅴ7）</p> <p>第5回 『大学ピアノ教本』 No.24. 25、及び4度の和音（Ⅳ）</p> <p>第6回 『大学ピアノ教本』 No.27. 30. 32、及びヘ長調の音階、調名（1オクターヴ）、及び1度、4、5、属7度の和音（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ7）</p> <p>第7回 『大学ピアノ教本』 No.33. 37、及びト長調の音階、二長調の音階（1オクターヴ）及び調名</p> <p>第8回 『大学ピアノ教本』 No.40～（No.40～No.65）は個人レッスン（学生の習熟度によって課題達成曲が異なる）音階・調名（ハ・ヘ・ト・ニ）、及び和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7）のまとめ</p> <p>第9回 『大学ピアノ教本』 No.40～（No.40～No.65）は個人レッスン。『幼児曲』とんぼのめがね</p> <p>第10回 『大学ピアノ教本』 No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』ビーマーチ</p> <p>第11回 『大学ピアノ教本』 No.40～（No.40～No.65）、『幼児曲』思い出のアルバム</p> <p>第12回 『大学ピアノ教本』 No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』かけあしマーチ</p> <p>第13回 『大学ピアノ教本』 No.40～（No.40～No.65）、『マーチ集』手をたたきましょう（個人により曲の進度が異なる）</p> <p>第14回 『讃美歌』だれがつくったの、『任意の曲』</p> <p>第15回 『大学ピアノ教本』、『幼児曲』、『マーチ』、『讃美歌』、『任意の曲』のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎技能を修得する。ピアノ奏法と楽典やソルフェージュなど基礎的な学習と連動して、歌唱とピアノ伴奏法の向上をはかる。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、『ピアノ教則本』では運指法、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な幼児曲やマーチが弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるように、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法の習熟を目指す（授業は予習型）。</p> <p>1. 課題</p> <p>(1) 楽典 ①音域 ②音程 ③音階 ④調と調号 ⑤和音</p> <p>(2) ピアノ課題曲</p> <p>①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.65程度 必修課題曲 No.1、3、4、5、9、11、13、17、21、24、25、27、30、32、33、37、40、43、45、49、51、53、56、60、63、65、他任意の曲</p> <p>②幼児曲 必修課題曲（とんぼのめがね・思い出のアルバム）</p> <p>③マーチ 必修課題曲（かけあしマーチ・手をたたきましょう・ビーマーチ）</p> <p>④讃美歌 必修課題曲（だれがつくったの）</p> <p>⑤任意の曲</p>
予習	毎時間与えられた課題曲を練習して次回の授業に臨むこと。
復習	合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社 ・一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜出版社 ・ 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 ・コピー資料
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。</p> <p>※上記①～④を総合的に勘案して評価。</p> <p>演習30% 定期試験20% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10%</p>
履修上の注意	<p>毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。毎時間与えられた課題曲を事前レッスン(自己学習)して授業に臨むこと。</p> <p>授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。</p>

講義科目名称：音楽Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Music Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大山 伸子・糸洲 のぶ子・神谷 智子・古謝 麻耶子・津田 涼子・仲松 あかり			

授業のテーマ及び到達目標	音楽Ⅰで習得した学習成果を踏まえ、保育現場で活用度の高い幼児曲やマーチ曲がスムーズに演奏できるスキルと表現法を修得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（個別レッスンを中心に行い習熟度によって進度が異なる）</p> <p>第2回 『大学ピアノ教本』No.66～94（進度による課題曲の進め方）</p> <p>第3回 『大学ピアノ教本』No.67、『幼児曲』おはようのうた（幼児曲は順不同・達成度別の進捗）</p> <p>第4回 『大学ピアノ教本』No.68、『幼児曲』おかえりのうた</p> <p>第5回 『幼児曲』No.70、『幼児曲』たんじょう日</p> <p>第6回 『大学ピアノ教本』No.71、『幼児曲』たなばたさま</p> <p>第7回 『大学ピアノ教本』No.74、『幼児曲』はをみがきましょう</p> <p>第8回 『大学ピアノ教本』No.75、『マーチ集』おお牧場はみどり（マーチは順不同・達成度別の進捗）</p> <p>第9回 『大学ピアノ教本』No.79、『マーチ集』ブルーセスマーチ</p> <p>第10回 『大学ピアノ教本』No.81、『讚美歌』お星がひかる</p> <p>第11回 『大学ピアノ教本』No.93、『幼児曲』かたつむり、『任意の曲』</p> <p>第12回 『大学ピアノ教本』No.94、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進捗）</p> <p>第13回 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進捗）</p> <p>第14回 『任意の曲』、『幼児曲』、『マーチ集』（習熟度による進捗）</p> <p>第15回 『大学ピアノ教本』、『幼児曲』、『マーチ集』、『任意の曲』及び全体のまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、幼児教育現場で活用度の高い幼児曲やマーチ曲等を中心に学習する。『大学ピアノ教本』の学習は、読譜力やピアノ奏法の技術がさらに高められるようにする。幼児曲、マーチ曲の学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多く修得出来るようにする。</p> <p>授業形態は、習熟度に応じ個別指導を中心に行う。予習型（自己学習）とする。</p> <p>1. 課題</p> <p>(1) 楽典 ①移調譜 ②移調奏 ③和音 ④音階 ⑤調と調号 ⑥その他</p> <p>(2) ピアノ課題曲</p> <p>①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.66～94のうち11曲程度 No.66、67、68、70、71、74、75、79、81、93、94、他 任意</p> <p>②幼児曲 必修課題曲（おはようのうた・おかえりのうた・たんじょう日・たなばたさま・はをみがきましょう）</p> <p>③マーチ曲 必修課題曲（おお牧場はみどり・ブルーセス・マーチ）</p> <p>④讚美歌 必修課題曲（お星がひかる）</p> <p>⑤任意曲</p>
予習	毎時間与えられた課題曲を練習して次の授業に臨むこと。
復習	合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。
テキスト	<p>・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社</p> <p>・ 一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜出版社</p> <p>・ 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社</p> <p>・ コピー資料</p>

参考書	特になし
評価方法・評価基準	①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。 ※上記①～④を総合的に勘案して評価。 演習30% 定期試験20% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10%
履修上の注意	毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。毎時間与えられた課題曲を事前レッスン(自己学習)して授業に臨むこと。 授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。

講義科目名称：図画工作 I

授業コード：

英文科目名称：Art and Craft Education I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華・荻谷 洋介			

授業のテーマ及び到達目標	図画工作 I では身近な自然や物の色や形、感触、匂い、音に親しむ経験をするのが大きな目標となる。日用品から食材まで子どもを取り巻く様々なマテリアルに加え、自然素材に実際に触れ、扱うことによって、身近な素材を体験・経験し、素材の特性に対し理解を深める。さらに、それらを幼児教育の場で活かせるよう活動案を提案する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー図画工作 I の目的と内容についてー</p> <p>第2回 表現の発達段階にそった造形あそびについて</p> <p>第3回 紙を使用した表現活動ー素材を知る</p> <p>第4回 紙を使用した表現活動ー導入の工夫と展開について</p> <p>第5回 水や氷（物質変化による造形）による表現活動</p> <p>第6回 風と色による表現活動</p> <p>第7回 音と色による表現活動（1）ー探した音・見つけた音を、色とかたちで表現する</p> <p>第8回 音と色による表現活動（2）ーかたちと色から音を探る</p> <p>第9回 動きと色による表現活動（1）ー動きに合わせて生まれるかたちと色</p> <p>第10回 動きと色による表現活動（2）ー色から生まれる身体表現</p> <p>第11回 沖縄の植物から色をとる</p> <p>第12回 沖縄の土で遊ぶ・染める</p> <p>第13回 廃材を利用した造形活動ー指導案立案</p> <p>第14回 廃材を利用した造形活動ー模擬授業とふり返り</p> <p>第15回 表現と素材について（まとめ）</p>
授業の概要	子どもの表現を理解し、指導する上で必要な基本的感性や表現力を、造形作品の制作と鑑賞を通じて身につける。様々な素材・教材や用具の特性を理解し、保育士・幼稚園教諭としての実技的スキルの向上を目的とする。また終盤に具体的な図画工作の活動案の提案・模擬授業・ふり返りを行い、実践力を養う。
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。
テキスト	テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布
参考書	福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアートープロジェクトアプローチの実践からー』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房, 2015）、村田浩子『子どもと楽しむ染め時間!』（かもがわ出版, 2013）
評価方法・評価基準	演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。 演習で制作した作品・発表 70% 指導案・模擬授業 10% 小レポート 10% 授業態度 10%
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します

講義科目名称：図画工作Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Art and Craft Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	主にグループでの共同制作活動を体験することで、子どもの特性の一つである「みたて」や「ごっこ」のイメージ的な側面への理解を深める。また、子どもの遊びを豊かにし、子どもたちの感性やイメージを刺激し、彼らの体験と経験を表現へと繋げるような造形表現活動の展開、および環境構成について考える。		
授業計画	第1回	オリエンテーション－図画工作Ⅱの目的と内容について－	
	第2回	「みたて」による造形表現(1)－雑材の収集とその造形性：導入の工夫	
	第3回	「みたて」による造形表現(2)－雑材の収集とその造形性－：広がりのある展開とは？	
	第4回	「みたて」による造形表現(3)－雑材の収集とその造形性－：教材の意味	
	第5回	「ごっこあそび」を通した造形表現(1)：導入の工夫	
	第6回	「ごっこあそび」を通した造形表現(2)：広がりのある展開とは？	
	第7回	「ごっこあそび」を通した造形表現(3)：教材の意味	
	第8回	日常を「異化」する表現活動(1)－光と影を楽しむ－(1) 素材を通して色と光を知る	
	第9回	日常を「異化」する表現活動(1)－光と影を楽しむ－(2) 導入の工夫と展開	
	第10回	日常を「異化」する表現活動(1)－光と影を楽しむ－(3) 教材の意味	
	第11回	コミュニケーションを通した造形活動(1)－地域環境や人とのかかわりの中で	
	第12回	コミュニケーションを通した造形活動(2)－広がりのある制作にするには	
	第13回	コミュニケーションを通した造形活動(3)－振り返り	
	第14回	子どもたちの創造性を刺激する制作環境について考える－美術士と保育士	
	第15回	子どもたちの創造性を刺激する働きかけについて考える－海外の現場の事例から	
授業の概要	図画工作Ⅰの基礎的な活動をふまえ、図画工作Ⅱでは、子どもたちの「みたて活動」や「ごっこ遊び」を活発にするような共同制作について考え、提案し、取り組む。また現場において、四季や地域の行事などの地域環境に根差した教材の取り入れ方を考える。		
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。		
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。		
テキスト	テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布		
参考書	福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践から－』（小学館, 2015）、小串里子著『みんなのアートワークショップ～子どもの造形からアートへ～』、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房, 2015）、		
評価方法・評価基準	演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。 演習で制作した作品・発表 70% 小レポート 20% 授業態度 10%		
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物がが必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します		

講義科目名称：幼児体育 I

授業コード：

英文科目名称：Gymnastics for Children I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山城 眞紀子・真栄城 勉・島袋 桂			

授業のテーマ及び到達目標	幼児期にふさわしい運動遊びの実際を通して、子ども理解を図り、保育者の役割を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 学習計画・幼児期の運動特性、指導案作成と分担</p> <p>第2回 保育者に必要な力「体力」、集団行動、フォークダンスの基本ステップ</p> <p>第3回 フォークダンス</p> <p>第4回 鬼ごっこ・ルール遊び(1)</p> <p>第5回 鬼ごっこ・ルール遊び(2)</p> <p>第6回 体操遊び、力くらべ遊び、</p> <p>第7回 身近な素材で運動遊び</p> <p>第8回 ストーリーゲーム(お話から運動遊びへ)</p> <p>第9回 ラジオ体操、はとぼっぽ体操、他</p> <p>第10回 ボール遊び</p> <p>第11回 なわ遊び</p> <p>第12回 かけっこ遊び、とびっこ遊び</p> <p>第13回 大型遊具遊び(1)(マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台)</p> <p>第14回 大型遊具遊び(2)(マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台)</p> <p>第15回 遊具でごっこ遊び・まとめ</p>
授業の概要	指導案を作成し模擬保育の方法を中心に、運動遊びの教材や環境の構成、展開の方法、指導上の留意点を学習する。
予習	授業計画に沿った運動遊びの教材の意義や特性等について学習し、体調を整え授業に備える。
復習	授業内容を通して、子ども理解や保育者の役割について振り返える。
テキスト	特に指定しない 随時資料を配布。
参考書	幼児期運動指針ガイドブック(文部科学省：幼児期運動指針策定委員会)
評価方法・評価基準	授業への参加度・課題発表(50%)、実技テスト(20%)、レポート(30%)などを総合して行う。
履修上の注意	服装、安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。

講義科目名称：幼児体育Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Gymnastics for Children Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山城 眞紀子・真栄城 勉・島袋 桂			

授業のテーマ及び到達目標	保育者としての基本的運動技能の習得を目指しつつ、遊具の特性における補助法や安全、そして戸外で積極的に遊ぶ意義や方法を理解する。 心や体で感じたことを自分の感情の趣くままに体で動いて表現を行う子どもたちの身体表現についての指導の内容や方法について理解する。
授業計画	<p>第1回 学習計画、実習を通しての幼児の運動と環境 保育者に必要な力「表現力」</p> <p>第2回 課題研究①・ジャンケン遊び</p> <p>第3回 課題研究②・なわ遊び</p> <p>第4回 課題研究③・お手玉遊び</p> <p>第5回 歩け歩け園外保育の企画と展開</p> <p>第6回 公園でミニ運動会の企画と展開</p> <p>第7回 わらべ歌で遊ぼう トランポリン (1)</p> <p>第8回 伝承遊びで遊ぼう トランポリン (2)</p> <p>第9回 作品づくり (3-1)</p> <p>第10回 沖縄のリズムと動きで遊ぼう</p> <p>第11回 身体表現で遊ぼう (1) ・「幼児の身体表現 (0歳から6歳まで)」 (ビデオ鑑賞)</p> <p>第12回 身体表現で遊ぼう (2)</p> <p>第13回 作品づくり (1) と発表</p> <p>第14回 作品づくり (2) と発表</p> <p>第15回 作品づくり (3-2) と発表・まとめ</p>
授業の概要	大型移動遊具の基礎技能の習得、補助法や安全について学ぶ。 戸外の環境を活用する運動遊びについて実際に企画し、展開する。 いろいろな動きの体験、歌やリズムにのって動いたり、作品のまとめ方など基礎的な知識や技能を習得する。
予習	授業計画に沿った運動遊びの教材の意義や特性等について学習し、体調を整え授業に備える。
復習	授業内容を通して、子ども理解や保育者の役割について振り返える。
テキスト	特に指定しない 随時資料を配布。
参考書	幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省：幼児期運動指針策定委員会)
評価方法・評価基準	授業態度50% 受講者の発表30% 小テスト・授業内レポート20%
履修上の注意	服装、安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。

講義科目名称：飼育栽培

授業コード：

英文科目名称：Feeding and Growing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
照屋建太			

授業のテーマ及び到達目標	講義では、飼育や栽培を通して、自然と親しみ、生き物の「命」の大切さについて実体験しながら学ぶ。近年、保育活動の中で日常化されている飼育や栽培の基本について学び、実践し習得する。また、生き物の「命」に対する責任感を持つ。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明，飼育栽培の意義について，グループ分け</p> <p>第2回 基礎学習①（植物の分類と特徴）</p> <p>第3回 飼育栽培実習①（生き物を世話するための準備）</p> <p>第4回 飼育栽培実習②（生き物の世話における注意点）</p> <p>第5回 基礎学習②（動物の分類と特徴）</p> <p>第6回 飼育栽培実習③（生き物の環境維持）</p> <p>第7回 飼育栽培実習④（生き物の観察）</p> <p>第8回 基礎学習③（飼育や栽培における土の影響）</p> <p>第9回 飼育栽培実習⑤（生き物の観察と病気）</p> <p>第10回 飼育栽培実習⑥（生き物の命の大切さ）</p> <p>第11回 基礎学習④（土壌飼育や栽培における天気の影響）</p> <p>第12回 レポート作成①（レポートの書き方）</p> <p>第13回 レポート作成②（レポートとパワーポイント作成の要点）</p> <p>第14回 パワーポイントの作成とレポートの提出</p> <p>第15回 グループ発表</p>
授業の概要	“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。また、生き物を育てる“場”が減り、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育活動を行い、人、社会、自然及び自分自身の生活についても考える。
予習	グループで飼育や栽培する生き物についてしっかり調べ、わからないことは講義内に質問する。
復習	生き物の飼育や栽培をしっかり行う。観察し、ファイルに記録する。
テキスト	必要に応じてプリントを配る。
参考書	岡田 要 監修『完全図解 生きものの飼い方全書』東陽出版 有沢 重雄『飼育栽培図鑑 はじめて育てる・自分で育てる』福音館書店 沖縄生物教育研究会編『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版 保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書 その他，必要に応じて紹介する。
評価方法・評価基準	小テストおよび授業中に出すレポート課題，レポート発表，飼育に対する責任，受講態度による総合評価 総合評価（成績）＝小テスト（10％）＋課題（20％）＋発表（20％）＋飼育に対する責任（20％）＋受講態度（30％）
履修上の注意	講義には積極的に参加し、レポートは参考文献を利用しまとめること。提出物の提出期限をしっかりと守ること。レポート発表は、パワーポイントを用いて行い、質問に対して的確に答えること。生き物の世話をしっかりと行うこと。欠席した場合は、講義内容に関するレポート（A4用紙・1000字程度）を提出すること

講義科目名称： 幼児の言葉

授業コード：

英文科目名称： Methods of Language Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山盛 淳子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：乳幼児がことばを獲得していく過程について説明できる 保育者の基本的な姿勢や援助のあり方について事例を踏まえて説明できる。</p> <p>思考判断：言葉を豊かにする教材を選択できる</p> <p>関心意欲：ことばの機能を理解しことばを育む環境について関心を持つ。</p> <p>態度：豊かなことばの感性と表現力を身につける</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 「言葉とは？」講義の概要</p> <p>第2回 言葉をめぐるワークショップ</p> <p>第3回 保育内容としての「言葉」の歴史（関連法令・子どもの権利条約）</p> <p>第4回 保育内容としての「言葉」の歴史（要領・指針・認定子ども園）</p> <p>第5回 乳幼児の発達と言葉① 言葉の育つ道すじ（言葉を話す前に）</p> <p>第6回 乳幼児の発達と言葉 言葉の育つ道すじ（言葉を話せるようになってから）</p> <p>第7回 乳幼児の発達と言葉 言葉の育つ道すじ（3歳児の言葉）</p> <p>第8回 乳幼児の発達と言葉 言葉の育つ道すじ（4歳児の言葉）</p> <p>第9回 乳幼児の発達と言葉 言葉の育つ道すじ（5歳児の言葉）</p> <p>第10回 言葉を育てる児童文化と地域文化①（沖縄の昔話の紹介）</p> <p>第11回 言葉を育てる児童文化と地域文化②（沖縄の昔話の紹介）</p> <p>第12回 言葉を育てるための保育者の関わり・役割</p> <p>第13回 指導計画と「ことば」</p> <p>第14回 家庭との連携と「ことば」</p> <p>第15回 ことばをめぐる新たな課題</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>乳幼児期は言葉獲得の重要な時期であり、ことばは生活の中で獲得される為幼児の生活を 知り、発達の筋道を学ぶことは幼児の発達を保障する保育者として最も肝要である。本授業では 「ことばの発達過程」「生活の中のことば」「思いの伝えあい（互いの関係性）」等を軸に乳幼児 のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な 基礎技術について学ぶ。</p>
予習	<p>事前に教科書を読み、授業内容をイメージしておく（特に乳幼児の発達段階）</p>
復習	<p>課題、まとめを読み、内容をより理解し、次の授業と関連づけができるよう努める</p>
テキスト	<p>『実践につなぐ 言葉と保育』近藤幹生 他</p>
参考書	<p>・幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書</p>
評価方法・評価基準	<p>期末試験：30% 課題・実技・演習への取り組み：30% 授業態度：15% 受講者の発表：10% 演習：15%</p>
履修上の注意	<p>提出物は期限厳守、実技は必須・保育科としての自覚に基づき自身が言葉を豊かに話せる様に努める</p>

講義科目名称：保育課程総論

授業コード：

英文科目名称：Curriculum for Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：保育課程・教育課程の意義と役割を理解し、理論と実践の関係を深める。保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について理解する。 関心意欲：保育内容と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 思考判断：幼児の発達に応じた保育内容を勘案し、指導計画を作成する。 態度：計画・実践・省察・評価・改善等の課程の全体構造を能動的に捉えた保育の在り方を理解する。</p>		
授業計画	第1回	保育の基本とカリキュラムの基礎理論	
	第2回	保育課程・教育課程と指導計画の意義	
	第3回	保育所指針と幼稚園教育要領	
	第4回	指導計画と評価の意義	
	第5回	指導計画の作成と留意事項（ビデオ視聴：日案作成）	
	第6回	領域と保育内容、環境構成	
	第7回	指導計画の作成（ビデオ視聴：部分案作成）	
	第8回	保育の省察と記録	
	第9回	保育の反省と自己評価	
	第10回	幼稚園教育の基本と教育課程の編成	
	第11回	指導計画の実際の展開と実践「部分案」①	
	第12回	指導計画の実際の展開と実践「部分案」②	
	第13回	計画、実践、省察、評価、改善の過程の循環による保育の質の向上	
	第14回	保育の計画の再編成	
	第15回	生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録と幼稚園幼指導要録	
	第16回	定期試験	
授業の概要	保育課程、教育課程、保育計画の意義及び編成の方法について知る。幼稚園や保育所（園）の保育内容などの保育の基本を理解した上で、保育実践における指導計画（日案、部分案）の立案の仕方を身につける。		
予習	教材研究を踏まえ部分案が立案できるように、対象年齢、発達段階を踏まえて準備をしておくこと。		
復習	指導の計画と評価について、保育・教育課程、保育内容等を踏まえ、理論と実践の関係を深めること。		
テキスト	『保育内容総論』中央法規		
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008年 全国社会福祉協議会『幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む』		
評価方法・評価基準	試験60%・課題（①日案②部分案作成③指導計画の展開と実践発表④教材研究）40%等で総合的に評価する。		
履修上の注意	長期の指導計画作成は幼稚園実習後に課す。		

講義科目名称：保育者論

授業コード：

英文科目名称：Nursery Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：保育者の役割と倫理、制度的位置づけについて理解をする。 関心意欲：保育者の専門職的成長について関心や意欲を示し、自己の成長に繋げる。 思考判断：保育者の専門性について考察し、理解する。 態度：保育者の協働について理解する。
授業計画	<p>第1回 保育者になるということ</p> <p>第2回 保育者の役割と倫理</p> <p>第3回 保育者の制度的位置づけ（資格・要件・責務）</p> <p>第4回 保育者の専門性①（養護と教育）</p> <p>第5回 保育者の専門性②（知識・技能及び判断）</p> <p>第6回 保育の省察</p> <p>第7回 特別講義</p> <p>第8回 保育課程・教育課程による保育の展開と自己評価</p> <p>第9回 保育者の協働①（保育・教育問題）</p> <p>第10回 保育者の協働②（専門職間及び専門機関との連携）</p> <p>第11回 保育者の協働③（保育者及び地域社会との協働）</p> <p>第12回 保育者の専門職的成長①（資質・能力）</p> <p>第13回 保育者の専門職的成長②（専門性の発達）</p> <p>第14回 保育者の役割と専門性(協同研究) ①</p> <p>第15回 保育者の役割と専門性(協同研究) ②</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて理解をする。保育の知識を深め、保育者の役割、専門性、保育をすることの意義について学び、資質・能力について理解を深める。また、保育・教育問題を把握し現状と課題を認識する。保育者の協働、保育者の専門職的成長について理解を深める。
予習	保育者の専門性や資質・能力等について、また、家庭や地域社会の保育・教育課題の事前学習を課す。
復習	復習を通して、講義内容の理解を深めること。
テキスト	民秋言編著『改定 保育者論』建帛社
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008年 全国社会福祉協議会『幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む』
評価方法・評価基準	試験60%・課題・授業内レポート・協同研究内容及び発表等40%を総合的に評価する。
履修上の注意	特別講義は、日程の変更もあり得る。

講義科目名称：保育指導法ゼミ

授業コード：

英文科目名称：Introduction to teaching methods in ECCE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺優子・糸洲理子・松田恵子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：保育の目標、領域と保育内容について理解する。保育所保育指針の各章のつながりを読み取り保育の全体な構造を理解する。 思考判断：保育内容を視野に入れた教材を研究し、技能発表をする。 関心意欲：幼児の保育の特徴に関心を持ち、生活や遊びを通しての総合的に指導することを理解する。 態度：保育所（園）の1日の流れを観察し、観察や記録の観点を踏まえて保育記録を作成する。
授業計画	<p>第1回 保育の基本と保育内容</p> <p>第2回 保育の目標、領域と保育内容</p> <p>第3回 保育課程と教育課程 保育の全体的構造</p> <p>第4回 保育所(園)のVTR視聴 子どもの発達と保育内容</p> <p>第5回 個と集団の発達と保育内容</p> <p>第6回 養護と教育が一体的に展開する保育</p> <p>第7回 幼稚園のVTR視聴 環境を通して行う保育</p> <p>第8回 遊びにおける総合的な保育</p> <p>第9回 生活や発達の連続性に考慮した保育</p> <p>第10回 家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育</p> <p>第11回 特別な支援を要する子どもの保育</p> <p>第12回 保育者としての子どもとの関わり方</p> <p>第13回 保育記録の視点(環境・保育の流れ・保育者の援助)</p> <p>第14回 保育所(園)見学</p> <p>第15回 保育内容と子どものかかわり</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	保育の目標、子どもの発達、保育の内容を関連付けて、保育内容と子どもの生活や遊びを通して総合的に指導することを学ぶ。また、保育課程・教育課程と指導計画との関連性を理解する。ビデオ視聴や保育所（園）見学を通して、保育所（園）、幼稚園の一日を把握し、保育内容と子ども理解とかかわりについて学ぶ。
予習	保育の目標、領域と保育内容について理解を深め、保育内容を視野に入れた教材を研究し、技能発表内容の事前学習を課す。
復習	保育の目標・子どもの発達・保育内容を関連付けて保育の全体的構造の理解を深める。
テキスト	監修：公益財団法人児童育成協会 編集：石川昭義・松川恵子『保育内容総論』中央法規
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』・全国社会福祉協議会『幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む』
評価方法・評価基準	試験60%、小テスト、保育所（園）見学記録、保育技能計画作成、保育技能発表等40%で総合的に評価する。
履修上の注意	保育技能発表は、3回目以降、3～4人ずつ行う。

講義科目名称：保育カウンセリング

授業コード：

英文科目名称：Counseling for Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	保育カウンセリング（保育相談支援）の意義と方法論について理解する。さらに子ども理解・保護者理解に基づく支援の実際について理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、保育カウンセリング（保育相談支援）の意義の理解</p> <p>第2回 子ども理解の方法</p> <p>第3回 保育カウンセリング（保育相談支援）の基本：子どもの最善の利益と保護者の養育力向上</p> <p>第4回 保育カウンセリング（保育相談支援）の基本：受容的かわり、自己決定、秘密保持</p> <p>第5回 カウンセリングの基本訓練（傾聴的態度）</p> <p>第6回 カウンセリングの基本訓練（思いやり行動の訓練：目かくし歩き）</p> <p>第7回 子どもとの信頼関係（事例検討）</p> <p>第8回 子どもの不安を受け止める（事例検討）</p> <p>第9回 保育所等在園児保護者からの相談（事例検討）</p> <p>第10回 地域の保護者からの相談（事例検討）</p> <p>第11回 虐待の相談（事例検討）</p> <p>第12回 保育所以外の児童福祉施設の保護者からの相談（事例検討）</p> <p>第13回 障がいのある子どもをもつ保護者からの相談（事例検討）</p> <p>第14回 関係機関等との連携と協力</p> <p>第15回 支援になる連絡帳の書き方</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	保育カウンセリング（保育相談支援）の意義を理解し、カウンセリングの基本訓練について学ぶ。さらに、事例検討（グループ討議）を通して保育所等での子ども・保護者支援の実際について学ぶ。
予習	事例を事前に読むこと
復習	事例検討を振り返り、応用できるように努めること
テキスト	青木久子・間藤侑・河邊貴子『子ども理解とカウンセリングマインド』萌文書林、小林育子『演習 保育相談支援』萌文書林から、講師作成資料を配布
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
評価方法・評価基準	期末試験40%、授業内レポート（毎時間提出）15%、授業態度10%、演習（グループ討議）30% 発表5%
履修上の注意	グループ討議を積極的に行うこと。

講義科目名称：教育実習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称：Pract. Teaching in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	5単位	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：教育課程や教育方針、教育内容などを把握し、観察、参加実習を通して、教育内容や幼児の行動、心理を理解する。</p> <p>思考判断：部分実習や責任実習においては、指導担当教員の指導に基づいて、教材研究を重ね、指導案を作成し、実習を行う。</p> <p>関心意欲：幼児の主体的な保育を引きだすための教師の役割、理解者、共同作業者としての関わり方や指導の在り方についての理解を深める。</p> <p>態度：教師に求められている資質、能力、技術と照らし合わせて、自己の課題を認識する。</p>
授業計画	<p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義と目的および実習を臨むに於ける必要な事務手続きと留意事項 ・幼稚園における目的・目標と子どもの一日の生活、教師の役割 ・実習の内容と方法の理解、および保育内容の理解と事前計画と教材等の準備 ・保育内容と保育方法の検討と指導案作成 ・教育実習先でのオリエンテーションおよび沿革・教育方針・運営等についての理解（事前訪問） ・観察学習 <p>教育実習の段階</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観察実習 ②参加/部分実習 ③部分/責任実習 ④預かり保育/他 <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌 ・指導案 ・教育実習中間協議会 ・教員による巡回指導と実習園での反省会 <p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習反省会 ・個別面談（教育実習の振り返りと事故の課題） ・実習レポート
授業の概要	<p>本学で学んだ専門的知識や技術を教育実習(120時間)の実践を通し教師として必要な資質、能力、技術を養う。</p>
予習	<p>与えられた課題を準備し出席する。</p>
復習	<p>学習した知識・技術の要点を整理し、実習の場で活用できるようにする。</p>
テキスト	<p>幼稚園教育要領解説書、その他必要な資料は担当者が準備する。</p>
参考書	<p>特になし</p>
評価方法・評価基準	<p>実習園からの評価資料、実習日誌・実習レポート（80%）、事前事後指導（20%）等で総合的に評価する。</p>
履修上の注意	<p>実習指導を履修している者</p>

講義科目名称：視聴覚教育

授業コード：

英文科目名称：Audio Visual Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	視聴覚教材の意義を理解し、保育内容を意識した、視聴覚教材を製作する。また、教材の演出（演じ方・他）方法を研究し基本的な技術・能力を養う。
授業計画	<p>第1回 視聴覚教材の意義について</p> <p>第2回 にこにこシアター（誕生会）①</p> <p>第3回 にこにこシアター（誕生会）②</p> <p>第4回 フラット教材 軍手人形・ペープサート・他 ①</p> <p>第5回 フラット教材 軍手人形・ペープサート・他 ②</p> <p>第6回 フラット教材 軍手人形・ペープサート・他 ③</p> <p>第7回 フラット教材 軍手人形・ペープサート・他 ④</p> <p>第8回 *作品発表</p> <p>第9回 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター・他 ①</p> <p>第10回 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター・他 ②</p> <p>第11回 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター・他 ③</p> <p>第12回 *作品発表</p> <p>第13回 ディスプレイ教材・他</p> <p>第14回 *作品発表</p> <p>第15回 まとめと視聴覚教材（作品）提出</p>
授業の概要	保育における「視聴覚教材」の意義を理解する。幼児の豊かな感性を育むための教材を研究し保育内容を意識した視聴覚教材を製作する。また作品発表を経験することで演出方法の素養を身につける。
予習	製作内容を事前に準備しておくこと。
復習	必要に応じて作品を修正し視聴覚教材の質を高める。また、演出方法を工夫する。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
評価方法・評価基準	視聴覚教材（ディスプレイを含む4点）60%、作品発表、課題（教材観・演出方法の研究）、作品の教材観・保育内容に関する教材研究40%等で総合的に評価する。
履修上の注意	作品においては、視聴覚でなければならない作品も課す。

講義科目名称：保育メディア研究

授業コード：

英文科目名称：Pre-Sch. Educ. Media Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
米盛 徳市			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア活用を通じて、保育の質を向上させようと思う研究心・使命感・倫理観を高める。 ・メディアに対する苦手意識を克服し、メディア活用に意欲的な人間関係を育む。 ・保育現場におけるメディア活用の実際を知り適切な文書作成やプレゼンテーションが出来るようになる。
授業計画	<p>第1回 保育園・幼稚園におけるマルチメディア活用の実態と今後の方向性</p> <p>第2回 ワード（ワープロソフト）における画像のコピーと貼付・テキストボックスの活用</p> <p>第3回 ワードを活用した「学級便り」の作成</p> <p>第4回 パワーポイントの基本的な操作方法</p> <p>第5回 パワーポイントによる自己紹介プレゼンテーションの作成</p> <p>第6回 アニメーション機能を取り入れた自己紹介プレゼンテーションの作成</p> <p>第7回 アニメーション機能を取り入れた「母への感謝の手紙」プレゼンテーションの作成</p> <p>第8回 ペイント（お絵描きソフト）で笑っている自画像を描き、パワーポイントに貼り付ける操作</p> <p>第9回 自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅠ</p> <p>第10回 自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅡ</p> <p>第11回 自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅢ</p> <p>第12回 ペイントを使用した絵本作成Ⅰ</p> <p>第13回 ペイントを使用した絵本作成Ⅱ</p> <p>第14回 ペイントを使用した絵本作成Ⅲ</p> <p>第15回 ペイントを使用した絵本作成Ⅳ</p>
授業の概要	<p>保育園や幼稚園では、①ペイント（お絵かきソフト）を使って、子どもたちの視覚に訴える様々な表示を行ったり、②パワーポイント（プレゼンテーションソフト）を使って、卒園式で1年間の子どもたちの園生活の様子や研究発表等のプレゼンテーションを行ったりしている。③絵本作成を行う。</p> <p>これからの保育士や幼稚園教諭には、ワープロやお絵かきソフト及びプレゼンテーションソフト等を活用できる能力が求められている。そこで、本講義においては、保育園や幼稚園で求められている上述の内容について、すべての学生ができるようにすることを目指している。成果の一部を学内の学生及び教員に公開する。</p>
予習	本講義の専用サイトにアクセスし過去の作品集を閲覧しながら自らのオリジナル作品を考案する。
復習	随時更新される他の作品を閲覧し、新しいアイデアを取り入れ作品の変更を行う。
テキスト	本講義用のホームページに随時必要な情報を提示する。予習や復習に役立つ。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	演習・課題85% 授業態度15%
履修上の注意	保育士や幼稚園教諭を目指している学生は、できるだけ履修することが望ましい。

講義科目名称：施設実習 I

授業コード：

英文科目名称：Pract. in Child Welfare Inst. I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解します。</p> <p>2. 観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深めます。</p> <p>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育(利用者の支援)および保護者(家族)への支援について総合的に学びます。</p> <p>4. 保育（支援）の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解します。</p> <p>5. 保育士（支援員）の業務内容や職業倫理について具体的に学びます。</p>
授業計画	<p><居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設における実習の内容></p> <p>1. 施設の役割と機能</p> <p>(1) 施設の生活と一日の流れ</p> <p>(2) 施設の役割と機能</p> <p>2. 子ども（利用者）理解</p> <p>(1) 子ども（利用者）の観察とその記録</p> <p>(2) 個々の状態に応じた援助やかかわり</p> <p>3. 養護内容・生活環境</p> <p>(1) 計画に基づく活動や援助</p> <p>(2) 子ども（利用者）の心身の状態に応じた対応</p> <p>(3) 子ども（利用者）の活動と生活の環境</p> <p>(4) 健康管理、安全対策の理解</p> <p>4. 計画と記録</p> <p>(1) 支援計画の理解と活用</p> <p>(2) 記録に基づく省察・自己評価</p> <p>5. 専門職としての保育士の役割と倫理</p> <p>(1) 保育士の業務内容</p> <p>(2) 職員間の役割分担や連携</p> <p>(3) 保育士の役割と職業倫理</p>
授業の概要	<p>施設実習指導を履修した学生が、居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設での実習を通じて、施設と利用者についての理解を深め、とりわけ基本的な生活習慣の指導法や利用者との信頼関係のきづきかた等について体験的に学習するとともに、広く施設における保育士の職務内容・役割ならびに他の専門職員とのチームワークのあり方などを学びます。</p>
予習	<p>実習施設の最終決定までに、施設についてよく調べ、見学またはボランティアをおこなうこと。</p>
復習	<p>反省会と実習評価のための個人面談において、実習についてよく振り返り、発言すること。</p>
テキスト	<p>特になし</p>
参考書	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領。その他、分野別に適宜紹介します。</p>
評価方法・評価基準	<p>実習施設の評価に実習担当教員の評価を加点して採点します。</p> <p>実習担当者の評価（日誌、レポート、反省会、訪問指導、面談等による） 50%</p> <p>実習施設評価 50%</p>
履修上の注意	<p>施設での実習オリエンテーションが実習開始と心得、実習日誌および実習レポートを期限内に提出して実習終了と心得ること</p>

講義科目名称：施設実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Pract. in Child Welfare Inst. Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深めます。</p> <p>2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養います。</p> <p>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解します。</p> <p>4. 保育士としての自己課題を明確化します。</p>
授業計画	<p>1. 児童福祉施設等の役割と機能</p> <p>2. 施設における支援の実際</p> <p>(1) 受容し、共感する態度</p> <p>(2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解</p> <p>(3) 個別支援計画の作成と実践</p> <p>(4) 子どもの家族への支援と対応</p> <p>(5) 多様な専門職との連携</p> <p>(6) 地域社会との連携</p> <p>3. 保育士の多様な業務と職業倫理</p> <p>4. 保育士としての自己課題の明確化</p>
授業の概要	<p>施設実習Ⅰ、相談援助、社会的養護内容等諸学科で習得した知識と経験をふまえ、施設実習Ⅰの実習施設に加えて、児童厚生施設など施設実習Ⅰで実習できなかった児童福祉施設その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設で実習することによって、保育士として必要な指導技術の幅を広げ、自らの児童観・人間観を深め、職業人としての社会参加意欲を高めます。</p>
予習	<p>実習施設の最終決定までに、施設についてよく調べ、見学またはボランティアをおこなうこと。</p>
復習	<p>反省会と実習評価のための個人面談において、実習についてよく振り返り、発言すること。</p>
テキスト	<p>特になし</p>
参考書	<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領。その他、分野別に適宜紹介します。</p>
評価方法・評価基準	<p>実習施設の評価50% 実習担当教員の評価（実習日誌、レポート）50%</p>
履修上の注意	<p>施設での実習オリエンテーションが実習開始と心得、実習日誌および実習レポートを期限内に提出して実習終了と心得ること</p>

講義科目名称：発達心理学Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Developmental Psychology Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	青年期の発達課題について理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、発達心理学Ⅱ（青年心理学）とは</p> <p>第2回 エリクソンのアイデンティティ論（自我統一性地位）</p> <p>第3回 身体発達（性的成熟の心理的影響）</p> <p>第4回 ジェンダー（自分の性をどのように引き受けていくか）</p> <p>第5回 家族関係（良い親子関係）</p> <p>第6回 友人関係（現代青年の友情）</p> <p>第7回 恋愛とは（好きになるころ）</p> <p>第8回 結婚（なぜ人は結婚するのか）</p> <p>第9回 自己評価と他者評価</p> <p>第10回 メディアとの付き合い方</p> <p>第11回 就職（自分は何がしたいのか）</p> <p>第12回 大人の発達障がい（自閉症スペクトラム）</p> <p>第13回 大人の発達障がい（ADHD）</p> <p>第14回 ストレス・マネジメント</p> <p>第15回 ライフ・サイクル（私の歴史と未来）</p>
授業の概要	青年期の心理と行動について、学ぶ。また、心理テストを通して、自分自身についての理解を深める。
予習	テキストの該当箇所を、事前に読むこと
復習	授業内容を再確認し、理解に努めること
テキスト	山崎晃・浜崎隆司（編）『スマートに生きる女性と心理学』北大路書房、川瀬正裕・松本真理子（編）『新自分さがしの心理学—自己理解ワークブック—』を参考に、資料を作成し配付する。
参考書	随時、紹介する。
評価方法・評価基準	授業内レポート50%、授業態度15%、発表35%
履修上の注意	授業内容を理解し、積極的に発表を行うこと。

講義科目名称：海外幼児教育研究

授業コード：

英文科目名称：Overseas Studies for ECCE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
喜舎場 勤子			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：就学前教育・保育の世界的動向や多様な保育方法等について、基本的な事項を理解する。 思考判断：日本の幼児教育・保育を多角的にみる目を培うと共に、批判的思考力や判断力を養う。 関心意欲：異文化理解および多文化共生への関心を高める。 態度：豊かな教育実践を支える基礎的な力を培う。
授業計画	<p>第1回 諸外国の動向と日本</p> <p>第2回 しつけと文化</p> <p>第3回 父親と子育て</p> <p>第4回 就学前教育・保育改革と保育の質</p> <p>第5回 生活基盤型</p> <p>第6回 スウェーデンの子育て</p> <p>第7回 就学準備型</p> <p>第8回 イギリスの就学前教育</p> <p>第9回 開発途上国と子ども</p> <p>第10回 モンテッソーリ・メソッド</p> <p>第11回 レッジョ・エミリア・アプローチ</p> <p>第12回 多様な保育方法 (T&M/PL)</p> <p>第13回 課題発表①</p> <p>第14回 課題発表②</p> <p>第15回 国際化とわが国の就学前教育・保育</p>
授業の概要	他国の就学前教育・保育に触れることで、それぞれの国の「歴史や文化」と「保育」「教育」が密接に関連していることを理解する。自己の文化理解を深め、日本の保育や教育を多角的にみる目を培う。また、保育実践の場で活用できる教材を開発する。
予習	事前にシラバスを確認し、授業に関する資料等を読み出席する。
復習	講義内容を振り返り、学んだ知識を活用できるように努める。
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	必要に応じて資料を配布する。
評価方法・評価基準	レポート50%・課題発表40%・受講態度10%
履修上の注意	講義形式の授業ですが、双方向型の講義を重視しできるだけ発言の機会をもうけます。受講ルールやレポート等については、初回講義時に説明予定です。

講義科目名称：老人福祉論

授業コード：

英文科目名称：Welfare of the Aged

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
近藤 功行			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：事前予備知識は不要。医療福祉をより理解することができることを目指す。 関心意欲：医療・保健・福祉、障害者理解を含めた内容に興味を持てることを目指す。 思考判断：現代社会における福祉に潜む内容など、単方向でなく多層的理解を目指す。 その他：福祉の職場で保育士資格を有している人がいる。こうした人の知識に近づく。
授業計画	<p>第1回 老人と子ども両者に有効な福祉政策とは 一老人と子どもの交流一</p> <p>第2回 高齢者と子どもの「統合ケア」を考える視点</p> <p>第3回 3障害（身体・知的・精神障害者）と高齢者を考える視点</p> <p>第4回 ノーマライゼーション、ユニバーサルデザイン理念を考える視点</p> <p>第5回 バリアフリーのソフト面、ハード面を考える視点</p> <p>第6回 高齢者と子どもを同じ場所でケアすることに対する効果</p> <p>第7回 高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（アンケート作成手法を学ぶ）</p> <p>第8回 高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（K J法的手法によるグループ学習）①</p> <p>第9回 高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（K J法的手法によるグループ学習）②</p> <p>第10回 幼児の思いやり行動と高齢者との触れ合いを探る視点</p> <p>第11回 統合（障害者受け入れ）保育と幼老共生の視点</p> <p>第12回 福祉サービスを探る視点</p> <p>第13回 福祉コミュニティを探る視点</p> <p>第14回 実り豊かな人生を考える</p> <p>第15回 まとめ（最終レポート提出作業に向けての課題説明&解説）</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	保育者養成における本講義の意義は、あらゆる子どもや障害児、者とその家族や高齢者の心理的側面の理解にある。また、高齢者の社会的ニーズについての社会的理解を深め、ノーマライゼーションの考え方が普及した中で、今後はさらにユニバーサルデザインなど一歩先行く概念の必要性などを考究しつつ、老人福祉サービスの包括的な体系を学ぶことも必要とされる。障害を持つ持たないに関わらず、人は必ず加齢に伴い老いを迎える。この時、障害を持つ可能性は高い。老人福祉法や介護保険制度などを学びながら、保育者として身につける豊かな人間性とケア能力を図る視点、資質を引き出す作業を講義を通して行うことを目指す。
予習	配付資料を用意して、講義を展開します。質問点を見つけ出して下さい。
復習	毎回、感想を書いて提出になります。アンケート的な部分はこちらで編集します。読み直して下さい。
テキスト	近藤功行（共著）1998『障害者の医療福祉のあり方についての考察』、川崎医療福祉学会誌8(1) 近藤功行（共著）2000『高齢知的障害者でのQOL意識に関する研究』、保健の科学42(1) 社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事制度研究会（監修）2002 社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事関係法令通知集、第一法規
参考書	—
評価方法・評価基準	毎時間、感想用紙(B4)1枚を配布し、時間内に記述、回収する。この感想用紙の左端には講義に関連した質問内容を、右側には講義の感想を記述する欄を設けて書いてもらう。また右側の下部に「ここで一言」のコーナーを設け、ここは自由記載とする。欠席した場合も、後でこの感想用紙は提出して欲しい(この場合、講義の感想欄は配布プリントを読んでの感想内容でよい)。なお、この感想は講義の理解度を知る上で用いるものであり、試験にかわるレポート課題は終盤の講義で明示し、B5版の用紙に作成してもらうことになる。

履修上の注意	予備知識は必要としない。講義は毎時間、担当者作成のプリント配布により行う。積極的に質問や発言をすることは大いに歓迎したい。講義で疑問に思ったことの学習なども含め、積極的な取り組みをして欲しい。なお、講義で課すものではないが、受講者のなかで国立療養所沖縄愛楽園訪問希望者があれば、訪問を計画、実施したい。
--------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
神田 朋子・仲間 裕子			

授業のテーマ及び到達目標	聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する福祉制度等についての理解と認識を深めるとともに、手話が言語であることを理解し、手話で日常会話を行うに必要な手話語彙及び手話表現技術を習得する。
授業計画	<p>第1回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。名前を紹介しましょう。 1、名前を表すいろいろな方法<手話・指文字・空書>がある。 2、自分の名前をいろいろな方法で表現できる。 3、疑問詞<何?>の使い方を覚える。 4、あいさつの手話も覚えて、講座の始めと終わりに手話であいさつしましょう。</p> <p>第2回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。数を使って話しましょう。 1、数の表現(数詞)を覚える。正確に表現する。 2、いろいろな数の表現ができる。 3、疑問詞<いつ?><いくつ?><いくら?>を使って会話してみましょう。</p> <p>第3回 聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解する。 1、家族とのコミュニケーション。 2、地域の人々とのコミュニケーション。 3、子育てで困ったこと。 4、職場で困ること。 5、病院で困ること。</p> <p>第4回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。家族を紹介しましょう。 1、山本さん一家の家族紹介を通して、人物表現の基礎となる表現を覚える。 2、自分の家族の紹介ができる。 3、疑問詞<だれ?>の使い方を覚える。</p> <p>第5回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。趣味について話しましょう。 1、自分の趣味について、身振りや表情などを工夫しながら伝える。 2、趣味に関わる手話を覚える。 3、<得意><苦手><上手><下手>なども使って、スポーツ、食べ物など身近な話題について会話ができる。</p> <p>第6回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。仕事について話しましょう。 1、仕事の様子の特徴をとらえ、見て分かりやすい表現を工夫して伝えることができる。 2、いろいろな仕事の手話を覚える。 3、仕事についての会話ができる。</p> <p>第7回 手話で自己紹介ができ、簡単な会話ができること。住所を紹介しましょう。 1、疑問詞<どこ?>の手話を使って会話する。 2、身近な都道府県名、地名建物などの手話を学ぶ。 3、空間を使って位置関係や距離感を表すことが学ぶ。</p> <p>第8回 時の表現・疑問詞を学び、会話ができること。1日、1ヶ月のことを話しましょう 1、1日に関する時の表し方を覚える。 2、身体の位置を使って過去・現在・未来を表すことを理解し、一ヶ月に関する時の表し方を覚える。 3、疑問詞<何時?><なぜ?><いつ?>を使って会話する。 4、<～した(過去、完了)>の表現を学び、したことを話すことができる。 5、身振りやそのときの様子もうまく使って、自分の一日、一ヶ月の生活を話し合う。</p> <p>第9回 時の表現・疑問詞を学び、会話ができること。1年、行事のことを話しましょう 1、一年に関する時の表し方を覚える。 2、疑問詞<どちら?><～したい>を使って会話する。 3、四季を通して、一年のことをテーマに会話する。 4、今まで学習した疑問詞を復習し、いろいろなことをたずねたり、答えたりする会話をする。 5、数に関する話題を中心に会話を広げていく。</p> <p>第10回 いくつかの生活場面を設定し、会話ができる。学校のことを話しましょう。 1、学校や保育所のことについて、今まで学習した手話を活かして話をする。 2、身振りも交えながら、学校や保育所での様子を具体的に表現する。 3、ろう学校(特別支援学校)や難聴学級のことなど、聴覚障害者の教育についても理解を深める。</p> <p>第11回 聴覚障害者の基礎知識・手話の基礎知識 耳の仕組みや聴覚障害の原因を理解するとともに、聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解する。 日本の手話の歴史及び特徴を理解する。</p> <p>第12回 保育の仕事について話しましょう。 1、今まで学習した手話を活かして話をする。 2、位置関係や手話を動かす方向などについても注意し、様子や気持ちについて会話をする。 3、聴覚障害者たちの課題を理解する。</p> <p>第13回 今まで学習した基本をまとめの学習。 ろう者とのフリーディスカッション、手話スピーチ、手話劇の3つの方法から選択した発表活動を通して、今まで学習したことを活かしてろう者に伝えることができたかどうか、確認し復習する。</p> <p>第14回 短文の表現・読み取り・表現のまとめ学習</p>

	<p>学んだことを復習し確実に身につける。 自己紹介を豊かに、そしてスムーズに表現することができる。 相手の自己紹介が分かる。</p> <p>第15回 まとめ学習・テスト①学科 今まで学習した単語、短文など。</p> <p>第16回 テスト ②実技 自己紹介を表す。 お互いのことをたずねあってみましょう。</p>
授業の概要	聴覚障害者のコミュニケーション手段である手話言語を理解するとともに、ろう講師と直接会話することでろう講師の話の内容が理解でき、自己紹介が表現できるようなレベルまで到達する。また、聴覚障害者の歴史・教育・就労など社会状況を学習し、ろう文化についても認識を深めていけるようにしていく。
予習	テキストに付いているDVDを見て、表現に慣れましょう。 単語を覚えておきましょう。
復習	手話単語、手話表現の工夫を確実に身につけて次のステップへいけるようにしてみましょう。 手話で習った表現を改めて表現(練習)してみましょう。
テキスト	手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟 ※内容が変わる時もありますのでご了承ください
参考書	『わたしたちの手話 (1) ～ (10) 巻 会話編1～3』全日本ろうあ連盟出版局
評価方法・評価基準	1、手話実技(読み取り・表現)手話で日常会話をする力を高めていく。(70%) 2、聴覚障害者に関する基礎知識(15%) 3、手話の基礎意識(15%)
履修上の注意	授業中は、講師の手話に集中し音声言語は慎むこと。 新しい表現について手や動かし方や方向を確認する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
神田 朋子・仲間 裕子			

授業のテーマ及び到達目標	手話の基本文法を学び、相手の会話が理解でき、特定の聴覚障害者となれば手話で日常会話ができるようになる。		
授業計画	第1回	手話で基本文法の学習。表情豊かに、具体的に①表情・強弱・速度 1、形の大小と表情を工夫して表すことができる。2、強弱や速度と表情を工夫して表すことができる。3、どんな服を買いに行くのか、自分のイメージで表現し会話ができる。	
	第2回	手話で基本文法の学習。表情豊かに、具体的に②具体的表現（様子や形） 1、動きや様子、形を視覚的イメージをもとに表すことができる。 2、視点の位置に合わせて表現を変えることができる。 3、買い物に行ったときの様子を具体的に伝え会話ができる。	
	第3回	手話で基本文法の学習。表情豊かに、具体的に③具体的表現（動き） 1、動き（動詞）の視覚的イメージによる様子を表現できる。 2、日本語にとらわれず、その場・状況に合った手話ができる。 3、その場、状況の視覚的イメージを持って、会話ができる。	
	第4回	まとめ（表情豊かに、具体的に） 1、強弱・速度などの工夫が表情と一体になって表現できる。 2、動き・様子などの違いを視覚的イメージをもとに表現できる。 3、日本語にこだわらず、その場・状況に合った表現できる。	
	第5回	手話で基本文法の学習。主語をわかりやすく①位置・方向（一対一で） 1、自分と相手の一対一の関係で手話の位置と動きの方向が変わることにより、主語が変わることを理解する。 2、一対一の関係で、いろいろな手話（動詞）を使って、「だれが」「だれに」ということを分かりやすく表現できる。	
	第6回	手話で基本文法の学習。主語をわかりやすく②位置・方向（この場にはいない第三者を含んで） 1、3人以上の場合は、それぞれ人の位置を決めることが大切であることを知る。 2、それぞれ人の位置を決めたら、動きの方向で「だれが」「だれに」ということを分かりやすく表現できる。 3、2人の会話の中で、その場にはいない第三者の人の位置を決め、スムーズに会話できるようにする。	
	第7回	手話で基本文法の学習。主語をわかりやすく③役割の切り替え 1、2人の会話を1人で、顔の向きや表情などを使い役割を演じ分けて表現できる。 2、3人以上になった場合、また2人の行動の様子を演じ分けることもあることも知る。	
	第8回	手話で基本文法の学習。主語をわかりやすく④指さし 1、「だれが」したのか、指さしを使って主語が分かるように表現できる。 2、「指さし」は、ろう者の会話の中でたくさん使われています。	
	第9回	手話で基本文法の学習。空間をうまく使いましょう。①左右・前後の空間活用 1、左右・前後の空間を上手に利用して、時間が経過していくことを表現できる。 2、いくつかの場所や内容を空間の位置を変えて分かりやすく表現できる。	
	第10回	手話で基本文法の学習。空間をうまく使いましょう②上下空間・指さしと視線の活用 1、上下の空間を使って、年齢、社会的立場、尊敬の気持ち、場所の移動の表現ができる。 2、一度表現した単語や話の内容をその空間の位置を指さしたり視線の活用したり表現することができる。	
	第11回	手話で基本文法の学習。両手や指をうまく使いましょう①同時性 1、両手や視線を上手に使うことで、2つのことを同時に表現できる。 2、手話では右手と左手で別々の単語を表現したり、手話と視線を同時に表現したりすることができる。	
	第12回	手話で基本文法の学習。両手や指をうまく使いましょう②指の代理的表現 1、指が前に表現し単語や話の内容の代わりになることを理解し、表現できる。 2、こども、きょうだい、場所、趣味など、複数の単語や話の内容を、指に割り当てて表現したあと、その指を代わり使っていく表現を学びます。	
	第13回	手話で基本文法の学習、繰り返しの表現・意味に合った手話 1、同じ手話を繰り返し表現することで、複数の意味を表現したり、話を強調したり、継続している様子を表現することができる。 2、日本語では同じことばでも、意味内容に合わせて適切な手話表現ができる。 3、助詞や時制による意味の違いに合わせて適切な手話表現ができる。	
	第14回	障害者福祉の基礎・聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度・ボランティア活動の講義 障害の概念、ノーマライゼーションの理念等障害者福祉の概要を理解する。 聴覚障害者活動の歴史を学習することにより、時代背景と聴覚障害者の要望、関連する聴覚障害者福祉施策を理解する。 ボランティア活動（手話奉仕員活動）の概念・心構え等を理解するとともに、手話奉仕員活動へ参加意欲を高める。	
	第15回	読み取り・聞き取りまとめ 学んだことを復習し、確実に身につける。 改めて手話単語・手話表現を確認する。	
	第16回	テスト ①学科②実技・まとめ	

	<p>今まで学習した単語・短文。 テーマに合わせて、手話で会話をする力を高めていく。 障害者福祉の基礎・聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度・ボランティア活動</p>
授業の概要	<p>基本文法を学習し手話で伝えあう力のレベルアップを作ります。ここにおいても大切なことは「ろう者の手話表現を繰り返し見て学ぶ」ことです。講座の学習で学んだことを地域のろう者との交流で活用し、自分の意見が手話でできるようにしていく。</p>
予習	<p>テキストに付いているDVDを見て、表現に慣れましょう。 単語を覚えておきましょう。</p>
復習	<p>手話単語、手話表現の工夫を確実に身につけて次のステップへいけるようにしてみましょう。 手話で習った表現を改めて表現(練習)してみましょう。</p>
テキスト	<p>手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟</p>
参考書	<p>手話通訳がわかる本 わたしたちの手話辞典Ⅰ、Ⅱ</p>
評価方法・評価基準	<p>手話実技と学科試験の二通りで行います。(70%) 障害者福祉の基礎・聴覚障害者活動と聴覚障害者福祉制度・ボランティア活動(30%)</p>
履修上の注意	<p>講師の話に対して「分かる・分からない」の意思表示ははっきりできるようにする。また授業中の音声言語は慎むこと。 新しい表現について、手や動かし方や方向を確認する。 ※手話Ⅰ(前期)を受けた方を対象とする。</p>

講義科目名称：音楽Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：Music Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大山 伸子			

授業のテーマ及び到達目標	音楽Ⅰ・Ⅱの基礎クラス（必修科目）を経て、音楽Ⅲは応用クラス（選択科目）である。ピアノ奏法や、多様な楽器によるアンサンブル奏法を学習し、幼児教育現場で発揮できる保育者をめざす。クラシックからポップスまで幅広い音楽に親しむ。
授業計画	<p>「第1回 オリエンテーション及びハノン（No. 38）の課題宿題</p> <p>第2回 『ハノン』 No. 38（音階）のレッスン</p> <p>第3回 『ハノン』 No. 39(4オクターヴのハ長調音階)</p> <p>第4回 『ハノン』 No. 39（4オクターヴのト長調音階）及び各自の習熟度に応じた課題</p> <p>第5回 『ハノン』 No. 39（4オクターヴのト長調・ニ長調・ヘ長調・変ロ長調）及び各自の習熟度に応じた課題</p> <p>第6回 『4手ピアノ連弾』（ロンド）</p> <p>第7回 『4手ピアノ連弾』ロンド『任意曲（例：幼児曲「犬のおまわりさん」等）</p> <p>第8回 『任意曲』（例：6手連弾「ラテツキー・マーチ」） 学生の選曲による課題</p> <p>第9回 『任意曲』（例：幼児曲「犬のおまわりさん」） 学生の選曲による課題</p> <p>第10回 『任意曲』ハンドベル演奏（例：ジブリより「さんぽ」等）</p> <p>第11回 『任意曲』ハンドベル演奏（例：幼児曲より「山の音楽家」）</p> <p>第12回 『任意曲』ピアノ曲、及び三線、管楽器等のアンサンブル（学生が選択する楽器）</p> <p>第13回 『任意曲』ピアノ、三線、多様な楽器と学生が選曲する楽器演奏の仕上げ</p> <p>第14回 ピアノ、管楽器（ホルン、サクソ等）、学生による創作アンサンブルの仕上げ</p> <p>第15回 学生による選択楽器と任意曲を演奏</p> <p>第16回 まとめ・反省</p>
授業の概要	<p>「音楽Ⅱ」で学習したことを踏まえ、幼児音楽を具体的に教材化できる能力や、総合的に音楽能力が高められるようにする。授業形態は、習熟度に合わせた個人レッスンを行い、歌唱伴奏法や独奏、連弾など多様な音楽表現法（三線・木管楽器等）を習得する。幼児教育の「表現」領域の重要性を理解し、保育現場で活用できる応用力や、より資質の高い音楽能力を目指す。また、クラシックからポップスまで幅広い音楽を演奏し楽しさを味わう。（予習型学習）</p> <p>(1) 各自の習熟度に合わせた選曲及び教員による課題 ①練習曲（ハノン No.38及びNo.39）②ピアノ伴奏（弾き歌い）③ピアノ独奏 ④ピアノ連弾（4手連弾、6手連弾）</p> <p>(2) 幼児曲 各自で選曲 ①幼児曲 ②保育園の生活歌</p> <p>(3) 伴奏法 ①弾き歌い</p> <p>(4) アンサンブル奏法 ①ハンドベル奏法 ②学生が希望する楽器によるアンサンブル奏法 ③その他</p> <p>(5) まとめ ①学生の創作によるアンサンブル演奏</p>
予習	毎時間与えられた課題曲を次の授業までに練習して臨むこと。
復習	合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。
テキスト	コピー楽譜資料配布、各自選曲した楽譜持参
参考書	特になし
評価方法・評価基準	①授業への参加度②授業態度③ピアノ実技テスト 上記（1）～（5）を総合的に評価する。受講者の発表80% 授業態度20%

履修上の注意	毎時間、レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。 自分で選曲した課題曲や教員による課題を、事前レッスン（自己学習）して授業に臨むこと。
--------	--

講義科目名称：海外幼児教育研修（実習）

授業コード：

英文科目名称：Presch. Ed. Overseas Fieldwork

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：価値観や文化の多様性を説明できる。 思考判断：自国の保育を客体化する。	関心意欲：海外の幼児教育や保育に興味を持つ。 態度：異文化に対する適応力を持つ。
授業計画		
授業の概要	ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ（ハワイ州カウアイ島）において、研修生用に開設された講義を受講するとともに、就学前の乳幼児や保護者等を対象とした移動幼児教育プログラム「Tutu & Me」やハワイ語イマージョン教育施設「Punana Leo」にて参観実習を行う。これらの実習をとおして、日本および沖縄の保育・幼児教育を客観的に観る視点を養う。2週間の研修期間が課せられる。	
予習	自己の研修目的を認識して、実習に臨めるように、学習を深めておくこと。	
復習	自己の研修目的と照らし合わせて、反省、評価し、考察すること。	
テキスト	必要に応じて資料を提供する。	
参考書	必要に応じて資料を提供する。	
評価方法・評価基準	実習態度、実習レポート、事前準備の取り組み等を中心に総合的に評価する。 事前準備 10% 実習態度 70% 実習レポート 20%	
履修上の注意	「基礎英語コミュニケーション」または「実用英語コミュニケーション」のいずれかを履修し、かつ「海外幼児教育研究」を履修していること。	

講義科目名称：保育・教職実践演習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称：Childcare Practice Seminar (Kindergarten)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
川西 康裕・赤嶺 優子・大城 りえ・糸洲 理子			

授業のテーマ及び到達目標	自己の課題を認識し、保育者として求められる最小限必要な資質能力を形成する。
授業計画	<p>第1回 インTRODakション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論</p> <p>第2回 飼育栽培活動のポイントとその展開</p> <p>第3回 幼稚園現場における保育者の資質と実践力および造形表現教育</p> <p>第4回 幼児の豊かな表現力を育てる音楽指導法（演習・グループ討議）</p> <p>第5回 健やかな成長をめぐる課題と指導法（グループ討議）</p> <p>第6回 特別講義：保育者の専門性とは</p> <p>第7回 エピソード記録とは</p> <p>第8回 事例研究会①</p> <p>第9回 事例研究会②</p> <p>第10回 事例研究会③</p> <p>第11回 幼児理解や学級経営についての講義・グループ討論</p> <p>第12回 幼児理解とカウンセリングマインド（ロールプレーイング）</p> <p>第13回 保育者の資質向上ならびに組織開発のためのソーシャルグループワーク演習</p> <p>第14回 保育者の使命感・責任感・教育的愛情</p> <p>第15回 資質能力の確認、まとめ</p>
授業の概要	これまでの講義・演習、さらに実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質形成を目的とする。 保育者として必要な①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解や学級経営、④保育内容の指導力などを、演習を通して、具体的に学んでいく。
予習	自己の知識・技能を振り返り、自己課題を確認すること
復習	授業内容を再確認し、理解に努めること
テキスト	授業内容に応じて資料を配布
参考書	適宜に提供
評価方法・評価基準	小テスト、事例研究の資料作成・発表・レポート、自己評価表
履修上の注意	—

講義科目名称：保育原理

授業コード：

英文科目名称：Principles of ECCE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
糸洲 理子・喜舎場 勤子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：保育の意義および目的・方法・内容等の基礎理論を理解する。 思考判断：使命感や倫理観を育む。批判的思考力や判断力を養う。 関心意欲：新聞等の関連報道に興味を持つ。社会システムの中の保育のあり方に関心を持つ。 態 度：豊かな保育実践を支える基礎的な力を培うと共に、保育者としての人間性を育む。
授業計画	第1回 保育とは 第2回 「養護」と「教育」 第3回 子ども観 第4回 子ども理解 第5回 保育における環境理解 第6回 保育内容と方法 第7回 保育の計画 第8回 保育所保育指針について 第9回 健康と安全について 第10回 保育施設の誕生と発展（西洋） 第11回 保育施設の誕生と発展（日本） 第12回 保育者とは 第13回 家庭支援と子育て支援 第14回 保育の現状と課題 第15回 保育の評価と保育者の研修 第16回 定期試験
授業の概要	保育原理では、保育の根源を踏まえつつ諸分野の専門的事項を学ぶ。保育者は限られた個人的信条や経験にのみとられることなく、理論的根拠や学問的背景に基づいて、自らの保育を実践していくことが求められる。本授業では保育の意義・目的・目標等の基礎知識の習得を目的とすると共に、保育を取り巻く諸課題についても理解を深める。
予習	シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない用語は調べておくこと。
復習	授業で学習した箇所の要点を整理し、自分の言葉で説明できるようにすること。
テキスト	森上史郎他編 2015 『最新保育講座① 保育原理 [第3版]』 ミネルヴァ書房
参考書	厚生労働省 2008年 『保育所保育指針』 文部科学省 2008年 『幼稚園教育要領』 内閣府 2014年 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』 その他、必要な資料は適宜配布する
評価方法・評価基準	試験50%、レポート30%、受講態度20%として、総合的に評価する。
履修上の注意	講義形式の授業だが双方向型の講義を重視し、できるだけ発言の機会を設ける。提出物は期限厳守。レポートについては初回講義時に説明予定。

講義科目名称：児童家庭福祉

授業コード：

英文科目名称：Child Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
川西 康裕			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解します。 2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解します。 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解します 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解します。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解します。
授業計画	<p>第1回 福祉系科目の体系</p> <p>第2回 児童家庭福祉の定義 小テスト</p> <p>第3回 児童家庭福祉の課題—現代社会と子どもの生活</p> <p>第4回 児童家庭福祉の理念 小テスト</p> <p>第5回 児童家庭福祉の歴史（留岡幸助と北海道家庭学校を中心に）</p> <p>第6回 児童家庭福祉および関連施策の体系 小テスト</p> <p>第7回 児童家庭福祉の法制度</p> <p>第8回 居住地域での児童家庭福祉現場体験</p> <p>第9回 保育</p> <p>第10回 児童養護問題 小テスト</p> <p>第11回 非行問題</p> <p>第12回 障害児福祉 小テスト</p> <p>第13回 児童家庭福祉の専門職</p> <p>第14回 世界の子どもたちと「子どもの権利に関する条約」</p> <p>第15回 居住地域での児童家庭福祉現場体験発表</p> <p>第16回 期末小テスト、まとめ</p>
授業の概要	<p>テキスト、小六法、ならびに参考書に即して講義します。盛りだくさんな内容ですが、留岡幸助、北海道家庭学校、子どもの権利条約についてはクローズアップし、施設実習ならびに家庭支援論への橋渡しも試みます。また、児童家庭福祉の現状認識を深めるために、居住地域で現場体験をおこないます。</p>
予習	<p>テキストを事前に読むこと／現場体験の発表練習をすること</p>
復習	<p>テキストを読みなおし、配布資料および講義記録ならびに小テストを読みなおすこと</p>
テキスト	<p>松本園子・堀口美智子・森和子『子どもと家庭の福祉を学ぶ《改定版》』ななみ書房、2017年 [小六法] 『保育小六法2017』ミネルヴァ書房、2017年</p>
参考書	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』・厚生労働省『保育所保育指針』、必要に応じてプリント対応</p>
評価方法・評価基準	<p>小テスト（10点×6＝60点）、現場体験レポート（30点）、現場体験発表（10点）</p>
履修上の注意	<p>テキストと『保育小六法2017』を必ず購入してください。居住地域の現場体験は未体験の通所施設（認可保育所を除く）を対象にします。時事問題に即して講義の順序は変更することがあります。</p>

講義科目名称：乳児保育

授業コード：

英文科目名称：Seminar in Prenursery Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	必修科目
担当教員			
大城 りえ・仲宗根 京子			

授業のテーマ及び到達目標	乳児保育の理念と役割、現状と課題について理解する。また、発達の特徴をふまえた3歳未満児の生活と遊びについて理解する。さらに、乳児保育の計画や記録等、保護者や関連機関について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、乳児保育の理念と役割</p> <p>第2回 乳児保育の現状と課題</p> <p>第3回 乳児保育（0歳児）の実際：ある保育園の1日（ビデオ学習）</p> <p>第4回 6か月未満児と保育内容（グループ発表）</p> <p>第5回 6か月から1歳3か月未満児と保育内容（グループ発表）</p> <p>第6回 乳児保育（1・2歳児）の実際：ある保育園の1日（ビデオ学習）</p> <p>第7回 1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容（グループ発表）</p> <p>第8回 2歳児の発達と保育内容（グループ発表）</p> <p>第9回 乳児の抱き方、おんぶの実習</p> <p>第10回 調乳・授乳の実習</p> <p>第11回 オムツ替え、清潔、着替えの実習</p> <p>第12回 乳児期の遊びと遊具</p> <p>第13回 乳児保育の計画</p> <p>第14回 乳児保育の記録</p> <p>第15回 乳児保育における連携</p>
授業の概要	乳児保育の基本と3歳未満児の発達の特徴をふまえ、生活と遊びについて学ぶ。また、演習を通して、乳児の世話の仕方や、必要な道具の扱い方を習得する。それらをふまえ、保育所保育指針に基づいた乳児保育の実践、計画等を理解する。
予習	テキストの該当箇所を事前に読むこと。
復習	講義で学んだ箇所を読み、講義内容の理解に努めること
テキスト	CHS子育て文化研究所（編）『見る・考える・創り出す 乳児保育』萌文書林 その他担当者が準備する。
参考書	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
評価方法・評価基準	小テスト30%、グループ発表20%、演習20%、課題（手作り教材の提出）20%、授業態度10%
履修上の注意	グループ発表や実習を積極的に行い、欠席しないこと。

講義科目名称：子どもの保健 I

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
知念 菜穂子			

授業のテーマ及び到達目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
授業計画	<p>第1回 はじめに 妊娠・出産のビデオ鑑賞</p> <p>第2回 子どもの健康と保健の意義</p> <p>第3回 子どもの発達・発育(子どもの成長)</p> <p>第4回 子どもの発達・発育(身体計測・身体発育の評価①)</p> <p>第5回 子どもの発達・発育(身体発育の評価②)</p> <p>第6回 子どもの発達・発育(身体発育の評価③・成長に影響を及ぼす因子)</p> <p>第7回 子どもの発達・発育(子どもの発達Ⅰ 脳・感覚器)</p> <p>第8回 子どもの発達・発育(子どもの発達Ⅱ 運動機能・子どもの姿勢)</p> <p>第9回 子どもの発達・発育(子どもの発達Ⅲ 精神発達)</p> <p>第10回 子どもの発達・発育(生理機能Ⅰ 体温調節・呼吸・循環・消化吸収)</p> <p>第11回 子どもの発達・発育(生理機能Ⅱ 排泄・水分代謝・免疫・睡眠)</p> <p>第12回 子どもの発達・発育(新生児)</p> <p>第13回 子どもの栄養(母乳栄養を中心に)</p> <p>第14回 小児(子どもの)保健行政</p> <p>第15回 子どもの保健Ⅰのまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。 2. 保育者として、子どもの持っている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。
予習	事前にテキストを読むこと
復習	講義の内容をより理解し、応用できるよう努める
テキスト	「わかりやすい子どもの保健」 西村昂三編著 同文書院
参考書	「子どもの保健Ⅰ」 佐藤益子 編著 ななみ書房 「保育のための小児保健」 高内正子編著 保育出版社 「小児保健Ⅰ」 田中哲郎編著 建帛社 「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著 光生館 「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児医事出版社
評価方法・評価基準	期末試験50% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：子どもの食と栄養

授業コード：

英文科目名称：Child Nutrition Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(0-2)	必修科目
担当教員			
古堅 由紀子・下地 房子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：5大栄養素・食品・食事の関係を理解できる。 関心意欲：幼児期からの規則正しい食習慣が健康に影響を及ぼすことに関心をもてる。 思考判断：保育者の立場から、自身の生活習慣を評価し、課題を修正できる。 態度：栄養情報が正しい根拠かどうかを選択でき正確な判断で、対応できる</p>
授業計画	<p>第1回 第1章 子どもの健康と食生活</p> <p>第2回 第2章 栄養・食に関する基本的知識1（糖質・脂質・たんぱく質）</p> <p>第3回 第2章 栄養・食に関する基本的知識2（ビタミン・ミネラル・水・食物繊維）</p> <p>第4回 第2章 栄養・食に関する基本的知識3（食事摂取基準）</p> <p>第5回 第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活1（乳児期・離乳期の栄養）</p> <p>第6回 離乳食の調理実習</p> <p>第7回 第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活2（幼児期の栄養）</p> <p>第8回 第3章 子どもの発育・発達と栄養・食生活3（学童・思春期の栄養）</p> <p>第9回 幼児食の調理実習</p> <p>第10回 第4章 食育の基本と実践</p> <p>第11回 第5章 児童福祉施設や家庭における食と栄養</p> <p>第12回 第6章 食の安全／第7章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養</p> <p>第13回 献立作成の手順・お弁当の献立作成</p> <p>第14回 作成献立の調理実習</p> <p>第15回 調理実習の考察・総括</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>小児期における食生活は生涯における健康の基礎を築く重要な時期である。栄養の基礎知識を理解し、自身の食生活を見直すことを基本としながら、授乳期・離乳期・幼児期・学童期の子どもの発育・発達の栄養摂取法・食生活のあり方について講義または実習を通して学習する。また、現代の食環境の課題から食育の重要性を知り、具体的な食育実践の方法を探る。</p>
予習	<p>次回の講義に関するキーワードを調べておくこと。</p>
復習	<p>授業内プリントをまとめること。</p>
テキスト	<p>編集・執筆 児玉浩子 『子どもの食と栄養』 中山書店</p>
参考書	<p>適宜紹介する</p>
評価方法・評価基準	<p>定期試験30% 授業態度20% 演習20% 授業への参加度20% 小テスト・授業内レポート10%</p>
履修上の注意	<p>教科書・配布されたプリントを忘れず持参すること。 調理実習の際は、エプロンと三角巾を持参すること。 最近の『食』の問題・話題について自分の考えを発表できるように準備しておく。</p>

講義科目名称：家庭支援論

授業コード：

英文科目名称：Theory of Families

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
川西 康裕			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭の意義とその機能について理解します。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解します。 3. 子育て家庭の支援体制について理解します。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解します。
授業計画	<p>第1回 福祉系科目の体系</p> <p>第2回 家庭支援の基本的視点①家族・家庭と家庭支援 小テスト</p> <p>第3回 家庭支援の基本的視点②家庭支援をめぐる現代的課題 小テスト</p> <p>第4回 保育・子育て支援における家庭支援①地域子育て支援拠点</p> <p>第5回 保育・子育て支援における家庭支援②保育所の役割 小テスト</p> <p>第6回 保育・子育て支援における家庭支援③子育てを支える社会資源</p> <p>第7回 障害児支援における家庭支援①障害児福祉制度と家庭支援 小テスト</p> <p>第8回 障害児支援における家庭支援②障害児支援と子育て支援の連携 小テスト</p> <p>第9回 障害児支援における家庭支援③障害児と家族の地域生活を支える社会資源</p> <p>第10回 児童虐待の予防と家庭支援①社会的養護と家庭支援 小テスト</p> <p>第11回 児童虐待の予防と家庭支援②社会的養護における子育て支援の役割 小テスト</p> <p>第12回 家庭支援の方法 小テスト</p> <p>第13回 家庭支援の現場体験/映画「クレイマー・クレイマー」視聴</p> <p>第14回 家庭支援の現場体験発表</p> <p>第15回 特別講義：ひとり親家庭の生活と支援</p> <p>第16回 まとめ/ディスカッション</p>
授業の概要	<p>すべての子育て家庭への支援を考える科目ですが、その中心に、ひとり親家庭への支援をおきたいと思っています。沖縄は日本で一番離婚率が高く、ひとり親家庭の出現率が高いからです。自分たちの結婚がうまくいかどうかは、誰もがフィフティ・フィフティの確率ですから、将来、支援される側の母親・父親にも、支援する側の保育者にもなるつもりで勉強します。家庭支援の現状認識を深めるためには現場体験をおこないます。また、予防的支援の視点から映画「クレイマー・クレイマー」の視聴を推奨します。</p>
予習	<p>テキストを事前に読むこと／現場体験の発表練習をすること</p>
復習	<p>テキストを読みなおし、配布資料および講義記録ならびに小テストを読みなおすこと</p>
テキスト	<p>渡辺顕一郎・金山美和子著『家庭支援の理論と方法——保育・子育て・障害児支援・虐待予防を中心に』金子書房、2015年</p>
参考書	<p>特になし</p>
評価方法・評価基準	<p>小テスト40% レポート現場体験30% 受講者の発表10% 演習（ディスカッション）10% その他（特別講義レポート）10%</p>
履修上の注意	<p>子育て家庭支援の現場体験をおこない、レポートを発表します。最後のディスカッションに必ず出席して発言しましょう。</p>

講義科目名称：地域子育て支援実習Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Community-based Childcare SupportⅠ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	1単位	必修科目
担当教員			
赤嶺 優子・照屋 建太・川西 康裕・大城 りえ・佐久本 邦華・大山 伸子・糸洲 理子・山城 眞紀子			

授業のテーマ及び到達目標	子育て家庭を取り巻く今日的課題を理解し、子育て・子育てを支援する内容及び方法を検討し実施する。
授業計画	<p>第1回 子育て支援とは①</p> <p>第2回 子育て支援とは②</p> <p>第3回 内容・方法の検討①</p> <p>第4回 内容・方法の検討②</p> <p>第5回 準備①</p> <p>第6回 準備②</p> <p>第7回 準備③</p> <p>第8回 準備④</p> <p>第9回 準備⑤</p> <p>第10回 準備⑥</p> <p>第11回 準備⑦</p> <p>第12回 準備⑧</p> <p>第13回 プログラム実施①</p> <p>第14回 プログラム実施②</p> <p>第15回 反省</p>
授業の概要	1・2年次合同の8クラス編成で行い、各クラスを1名の専任教員が担当する。子育て支援とは何かを理解し、クラスごとに子育て支援の内容・方法を検討する。学内あるいは学外で、地域子育て支援プログラムを実施する。
予習	子育て支援について、事前学習を行う。
復習	実施内容を振り返り、子育て支援について理解を深める。
テキスト	—
参考書	—
評価方法・評価基準	授業態度：60% 自己評価：40%
履修上の注意	企画・立案・予算管理さらに対外的な交渉等も含まれるため、主体的に参加・活動を行うこと

講義科目名称：保育ボランティア体験

授業コード：

英文科目名称：Volunteer in Childcare Program

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
山城 眞紀子			
授業のテーマ及び到達目標	本学学生が地域の子どもと触れ合うことにより、座学では学びえない「子どもの生活環境」理解や「遊び」の体験等を深める。本体験は、大学における学びへの動機づけを目的とする。		
授業計画	<p>実習期間：①通年とする。(4月～12月まで) ②体験時間数は、30時間以上とする。</p> <p>実施方法：①本学に依頼があるボランティア要請と連携して実施する。 ②学生自身がボランティア先を確保して実施する。</p> <p>対象施設：保育所・幼稚園・児童館・学童クラブ・施設実習配置対象の施設・子ども関連団体等</p> <p>提出物：①保育ボランティア体験報告書</p> <p>その他：①学生課・学科事務室・担当教員への連絡・報告等を怠らない事。 ②体験時間数(30時間以上)の確認を行う事。 ③オリエンテーション・中間報告会・全体報告会(後期)へ参加する。</p>		
授業の概要	学生自身が直接施設へ依頼・日程調整等行い、ボランティアを実施。終了後、報告書を提出。		
予習	①ボランティア先の情報を把握し、到達目標に合致したボランティア先に依頼する。 ②事前学習として決定したボランティア先の体験内容を十分に把握する。		
復習	保育ボランティア体験を振り返り報告書にまとめる。		
テキスト	必要な資料のプリント配付		
参考書	特に指定しない		
評価方法・評価基準	①ボランティア体験時数(30時間以上)と報告書 70% ②オリエンテーション・中間報告・全体報告会への参加と報告書 30%(3回×10%)		
履修上の注意	事前オリエンテーション・中間報告会・全体報告会への参加は必須である		

講義科目名称：相談援助

授業コード：

英文科目名称：Social Work Practice Skills

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
砂川 亜紀美			

授業のテーマ及び到達目標	保育士に必要な「社会福祉に関する相談援助」の知識技術の習得		
授業計画	第1回	授業への導入と相談援助の理論と意義および機能	
	第2回	相談援助の発展史	
	第3回	現代日本における保育士の役割とソーシャルワーク	
	第4回	相談援助の視点	
	第5回	相談援助の対象・過程	
	第6回	相談援助の技術とアプローチ	
	第7回	相談援助の計画・記録・評価	
	第8回	相談援助と自己覚知①	
	第9回	相談援助と自己覚知② グループワーク	
	第10回	関係機関との協働・専門職との連携	
	第11回	多様性の理解 (DVD) ① 前半	
	第12回	多様性の理解 (DVD) ② 後半	
	第13回	社会資源の活用、調整、開発	
	第14回	事例分析	
	第15回	ロールプレイ等	
	第16回	定期試験・まとめ	
授業の概要	社会福祉に関わる基礎知識と実習経験を基にしながら、相談援助の方法と技術を学び活用する意義は何かを検討した上で、その概要、効果的な展開のあり方を事例と共に考えたい。		
予習	①配布する資料の疑問点（用語等）について調べておくこと ②日頃から福祉に関するニュースに目を配り、自分なりの考えを持つておくことが望ましい。		
復習	教科書や配布資料を見直し、授業での疑問点については次回の授業時に質問するなど、理解に努めること。		
テキスト	特に指定せず、レジメや資料などは講師が印刷して配布する。		
参考書	授業中に必要に応じて随時紹介する。		
評価方法・評価基準	授業への参加度、授業態度、小レポート、試験等をすべて取り入れた評価をする。 試験（中間・期末試験）50% 授業態度20% 小テスト・授業内レポート10% 受講者の発表10% 演習10%		
履修上の注意	演習を取り入れた形で授業を進めるので前向きで積極的な参加（意見や質問の表明）を求めたい。		

講義科目名称：社会的養護

授業コード：

英文科目名称：Principles of Protective Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
照屋 徹			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ・社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 ・施設養護における家庭支援の重要性とその実践方法について理解する。
授業計画	<p>第1回 子どもの社会的養護の基本的な考え方</p> <p>第2回 欧米における児童福祉観の変遷</p> <p>第3回 日本における児童福祉観の変遷</p> <p>第4回 養育環境に問題を抱える子どものための施設</p> <p>第5回 心身に障がいを抱える子どものための施設</p> <p>第6回 情緒、行動に問題を抱える子どものための施設</p> <p>第7回 社会的養護の制度と法体系</p> <p>第8回 児童福祉を支える主な法律</p> <p>第9回 施設養護の職員の専門性</p> <p>第10回 施設養護における基本的な援助技術</p> <p>第11回 個別支援援助計画の作成（Ⅰ）</p> <p>第12回 個別支援援助計画の作成（Ⅱ）</p> <p>第13回 虐待問題と児童養護</p> <p>第14回 今後の課題と展望</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	社会的養護の場としての児童福祉施設において、児童の養護に従事するための必要な専門的知識と技術について体系的に学び、さらに施設養護における専門職としての在り方について考察する。
予習	レジュメを事前によく読み毎回授業に出席してください
復習	講義内容をより理解し、応用できるように努めること
テキスト	松本峰雄編著『子どもの養護』 建帛社
参考書	吉田眞理編著『社会的養護』 萌文書林
評価方法・評価基準	定期試験80% 小テスト・授業内レポート10% 授業態度10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：保育の心理学

授業コード：

英文科目名称：Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大城 りえ・中野 久美子			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 ・生活と遊びを通して、子どもの経験の重要性や学習の過程を理解する。 ・保育現場における発達援助について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、保育の心理学とは</p> <p>第2回 子ども理解における発達（胎児期から幼児期）の把握</p> <p>第3回 個人差や発達過程に応じた保育</p> <p>第4回 身体感覚を伴う経験と環境の相互作用</p> <p>第5回 環境としての保育者と子どもの発達</p> <p>第6回 子ども相互のかかわりおよび自己主張と自己抑制</p> <p>第7回 集団と保育の環境</p> <p>第8回 子どもの生活と学び</p> <p>第9回 子どもの遊びと学び</p> <p>第10回 生きる力の基礎を培うとは</p> <p>第11回 自己の主体性の形成と発達援助</p> <p>第12回 発達の課題に応じた援助</p> <p>第13回 発達の連続性と就学への支援</p> <p>第14回 発達援助における協働</p> <p>第15回 子どもの発達と保育の課題</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	子どもの発達と保育実践について学ぶ。また、生活と遊びを通して子どもたちが経験していることや学習の過程を理解する。さらに、事例検討（グループ討議）を通して子どもたちの発達を促す具体的な発達援助について学ぶ。
予習	テキストの該当箇所を、事前に読むこと
復習	講義で学んだ箇所を読み、講義内容の理解に努めること
テキスト	新保育士養成講座編纂委員会（編）『新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学』 全国社会福祉協議会
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
評価方法・評価基準	期末試験40%、授業内レポート（毎時間提出）15%、演習（グループ討議）30%、発表5%、授業態度10%
履修上の注意	グループ討議を積極的に行うこと。

講義科目名称：子どもの保健Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
知念菜穂子			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 2. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。 3. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。 4. 施設等における子どもの心身の健康および安全の実施体制について理解する。
授業計画	<p>第1回 はじめに ダウン症ビデオ鑑賞</p> <p>第2回 よくみられる病気と事故 先天異常</p> <p>第3回 よくみられる病気と事故 感染する病気（ウイルスによる病気）</p> <p>第4回 よくみられる病気と事故 感染する病気（細菌感染による病気）</p> <p>第5回 よくみられる病気と事故 呼吸器系の病気・循環器系の病気</p> <p>第6回 よくみられる病気と事故 消化器の病気・血液の病気と小児がん</p> <p>第7回 よくみられる病気と事故 腎臓・泌尿器・性器内分泌の異常による病気</p> <p>第8回 よくみられる病気と事故 アレルギー・神経系及び精神心理系の病気</p> <p>第9回 よくみられる病気と事故 皮膚の病気、骨・関節・筋肉の病気と異常</p> <p>第10回 よくみられる病気と事故 眼・耳・鼻・口・歯の病気と異常</p> <p>第11回 よくみられる病気と事故 子どもの事故</p> <p>第12回 病気の予防と保健指導</p> <p>第13回 子どもの精神保健～心のケア～</p> <p>第14回 生活環境と育児</p> <p>第15回 子どもの保健Ⅱのまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。 2. 保育者として、子どものもっている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。
予習	事前にテキストを読むこと
復習	講義の内容をより理解し、応用できるよう努める
テキスト	「わかりやすい小児保健」 西村昂三編著 同文書院
参考書	<p>「子どもの保健Ⅰ」 佐藤益子編著 ななみ書房 「保育のための小児保健」 高内正子編著 保育出版社</p> <p>「小児保健Ⅰ」 田中哲郎編著 建帛社 「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著 光生館</p> <p>「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児医事出版社</p>
評価方法・評価基準	期末試験50% 受講者の発表30% 授業態度20%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：子どもの保健Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
知念 菜穂子			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。 2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。 3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。 4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。
授業計画	<p>第1回 はじめに 妊婦・赤ちゃん体験</p> <p>第2回 子どもの発育を知ろう 身体測定</p> <p>第3回 子どもの発達を知ろう</p> <p>第4回 子どもの健康状態を知ろう バイタルサインの測定</p> <p>第5回 日常における養護の方法① 抱っこ・着替え・おむつ替え等</p> <p>第6回 子どもの保育環境づくり</p> <p>第7回 よくわかる病気について知ろう</p> <p>第8回 よくみられる病気と事故 アレルギー・神経系及び精神心理系の病気</p> <p>第9回 よく起こる事故について知ろう</p> <p>第10回 いざというときの応急処置について知ろう</p> <p>第11回 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について知ろう</p> <p>第12回 子どもの生活習慣について考えてみよう</p> <p>第13回 世界の子どもの保健をながめてみよう</p> <p>第14回 ほけんだより作成</p> <p>第15回 子どもの保健Ⅲまとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	子どもの保健の基本的知識・技術を習得し、実践活動ができる保育能力を養う。
予習	事前にテキストを読むこと
復習	講義の内容をより理解し、応用できるよう努める
テキスト	これならわかる！「子どもの保健演習ノート」 *子育てパートナーが知っておきたいこと* 榊原 洋一 監修 診断と治療社
参考書	「子どもの保健Ⅱ」 佐藤 益子 編著 ななみ書房 「子どもの保健実習」 兼松 百合子 他 編著 同文書院 「小児保健実習」 高内正子編著 保育出版社 「最新乳幼児保育指針」 母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所編 日本小児医事出版社
評価方法・評価基準	期末試験50% 演習30% 授業態度20%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：障害児保育

授業コード：

英文科目名称：Handicapped Child Caring Pract.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山田 悦子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：健全児、障害児の発達を説明できる。 思考判断：育ちの基本を指摘できる。</p> <p>関心意欲：障害児保育・療育に興味を持てる。 態度：既存概念に疑いを持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 障害児の発達について①</p> <p>第2回 障害児の発達について②</p> <p>第3回 障害児の種類とその特徴①</p> <p>第4回 障害児の種類とその特徴②</p> <p>第5回 発達の遅れ①</p> <p>第6回 発達の遅れ②</p> <p>第7回 自閉症スペクトラムについて①</p> <p>第8回 自閉症スペクトラムについて②</p> <p>第9回 自閉症スペクトラムについて③</p> <p>第10回 演習①</p> <p>第11回 演習②</p> <p>第12回 障害児保育発達の保障①</p> <p>第13回 障害児保育発達の保障②</p> <p>第14回 きょうだいへの支援・まとめ①</p> <p>第15回 きょうだいへの支援・まとめ②</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>1) 様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点について学習させる。</p> <p>2) 障害児保育場面における日常生活動作、食事、排泄、更衣の生活動作など具体的な保育方法について理解させる。</p> <p>3) 相談機関等の種類と内容を理解すると共に障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に理解を深めさせる。</p>
予習	事前に配布したプリントを読み、障害に対して認識しておく
復習	授業学んだ箇所を再度読み、障害の理解をより深め次への授業のステップに繋げる
テキスト	『障害児保育』近藤直子・白石正久・中村尚子編著 全障研出版
参考書	『障害児の療育的保育』『発達とは矛盾をのりこえること』、その他等
評価方法・評価基準	期末試験70% 授業態度20% 授業への参加度10%
履修上の注意	講義には目的意識を持って、主体的に参加すること。講義を通じて自ら思考する態度を身に付けること。また、講義中は他者への迷惑行為（携帯電話・メール・私語・離席等）を固く禁止する。

講義科目名称：社会的養護内容

授業コード：

英文科目名称：Seminar in Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
砂川 純子			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護における子どもの最善の利益の意味を理解した支援・援助について学ぶ。 ・社会的養護を通して、家庭支援、児童福祉、地域支援（福祉）等について認識を深める。 ・個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常の生活支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。
授業計画	<p>第1回 社会的養護とは</p> <p>第2回 児童の権利擁護</p> <p>第3回 社会的養護の実施体系/社会的養護の理念と原理</p> <p>第4回 施設における自立支援のあり方</p> <p>第5回 自立支援計画の意義と作成</p> <p>第6回 施設における生活支援と規則について</p> <p>第7回 事例分析（各種施設）</p> <p>第8回 事例分析（家族再構築）</p> <p>第9回 事例分析及び記録及び評価</p> <p>第10回 被虐待児・発達障害児の生活支援</p> <p>第11回 自立に向けたアフターケアの支援について</p> <p>第12回 児童相談所及び関係機関との連携について</p> <p>第13回 保育士・ソーシャルワーカー等の専門性に係る知識、技術とその応用</p> <p>第14回 施設の小規模化と地域とのかかわり</p> <p>第15回 社会的養護の今後の課題と展望</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	各児童施設の養護内容の理念を前提にした支援・援助についてディスカッション等を通して具体的なあり方を学習できるようにする。
予習	テキストにて事前学習を行い授業に臨む。
復習	授業内容をふりかえり理解を深める。
テキスト	「児童福祉を支える演習 社会的養護内容」 萌文書林 吉田真理編著
参考書	「子ども虐待という第四の発達障害」 学研 杉山登志郎著
評価方法・評価基準	<p>評価割合：期末試験 80%</p> <p>レポート 20%</p>
履修上の注意	・

講義科目名称：保育所実習 I

授業コード：

英文科目名称：Nursery Sch. Teaching Pract. I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
川西 康裕			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
授業計画	<p>実習の方法は、大きく分けると、次の段階がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 ①保育所の生活と一日の流れ ②保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子どもの理解 ①子どもの観察とその記録による理解 ②子どもの発達過程の理解 ③子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 ①保育の計画に基づく保育内容 ②子どもの発達過程に応じた保育内容 ③子どもの生活や遊びと保育環境 ④子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 ①保育課程と指導計画の理解と活用 ②記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割 ①保育士の業務内容 ②職員間の役割分担や連携 ③保育士の役割と職業倫理
授業の概要	保育所実習を通し、子どもの発達、保育内容、保育士の役割等について学ぶ。
予習	保育所保育指針を読み、保育所の役割、子どもの発達、保育の内容等の理解を深めること。
復習	保育所実習 I の省察・自己評価し、自己の課題を認識し課題解決をすること。
テキスト	全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』。その他必要な資料は、担当者が準備する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	実習担当教員の評価（実習日誌・実習レポート・他）50% 実習先の評価50%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：保育所実習指導 I

授業コード：

英文科目名称：Nurse.Schools Pract. Orientation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
川西 康裕・赤嶺 優子・山城 眞紀子・糸洲 理子			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 保育施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
授業計画	<p>第1回 保育実習の意義 ①実習の目的</p> <p>第2回 保育実習の意義 ②実習の概要</p> <p>第3回 実習の内容と課題の明確化 ①実習の内容</p> <p>第4回 実習の内容と課題の明確化 ②実習の課題</p> <p>第5回 事前訪問（実習先オリエンテーション）と訪問時のマナー</p> <p>第6回 実習に際して留意事項 ①子どもの人権と最善の利益の考慮</p> <p>第7回 実習に際して留意事項 ②プライバシーの保護と守秘義務</p> <p>第8回 実習に際して留意事項 ③実習生としての心構え</p> <p>第9回 実習の計画と記録 ①実習における計画と実践</p> <p>第10回 実習の計画と記録 ②実習における観察、記録及び評価</p> <p>第11回 保育技能の実践と評価①</p> <p>第12回 保育技能の実践と評価②</p> <p>第13回 特別講義</p> <p>第14回 事後指導における実習の総括の明確化 ①実習の総括と自己評価</p> <p>第15回 事後指導における実習の総括の明確化 ②課題の明確化</p> <p>第16回 保育所実習 I の自己評価と II の課題</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導は実習内容全般にわたって把握する。 2. 事後指導は実習で得た感動や反省、問題点などを出し合いまとめる。
予習	<ol style="list-style-type: none"> ①実習内容を把握し、目的、意義等の実習内容を把握し、自己の目的を認識する。 ②保育技能の実践を計画し部分案を作成する。
復習	<ol style="list-style-type: none"> ①実習の総括を行ない自己評価し自己の課題を認識し、IIの課題を明確にする。 ②保育技能の発表について自己評価し、改善点を考察する。
テキスト	全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』その他必要な資料は担当者が準備する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業内レポート（10%）、指導案（日案・部分）作成（20%）、保育技能発表と評価（10%）、その他（提出物）等（60%）で総合的に評価する。
履修上の注意	特になし

講義科目名称：施設実習指導 I

授業コード：

英文科目名称：Welfare Inst. Pract. Orientation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華・川西 康裕			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習の意義・目的を理解し、社会的養護（保育、支援）について総合的に学びます。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にします。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解します。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解します。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー施設実習とは</p> <p>第2回 実習先希望調査 実習配置先の決定</p> <p>第3回 事前訪問・ボランティア レポート</p> <p>第4回 実習施設に関する調査 レポート</p> <p>第5回 演習「心身障害児への対応について」（沖縄中部療育医療センター派遣講師）</p> <p>第6回 DVD「保育者への歩みー乳児院・児童養護施設」実習生調査書</p> <p>第7回 DVD「施設実習の予備知識ー障害者支援施設」実習計画書 実習先地図</p> <p>第8回 実習記録を学ぶ（先輩の日記から）</p> <p>第9回 先輩からの情報伝達会</p> <p>第10回 部分実習発表会 誓約書</p> <p>第11回 講演 勝連盛伸氏 実習日誌、評価表、出勤簿、実習レポート集配布</p> <p>第12回 施設オリエンテーション 実習実施</p> <p>第13回 講演 玉城孝氏</p> <p>第14回 実習終了者からの情報伝達会</p> <p>第15回 反省会 実習日誌、実習レポート提出</p> <p>第16回 施設評価票伝達 課題の発見</p>
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 可能であれば、実習施設の見学または1日ボランティアをおこない、レポートし、発表する。 2. 実習に行く前にテキストを読み、小テストを5～6回おこなう。読後ディスカッションし、質疑応答する。 3. 実習施設に関する調査レポートを提出し、発表する。理解がゆきとどくまで再提出をおこなう。 4. 部分実習・責任実習があることを想定して、準備する。 5. 実習生調査書、実習計画書、誓約書等を作成する。 6. 施設職員による特別演習をおこない、元施設利用者による特別講義をおこなう。 7. 上級生の助言を聴く会と実習終了者からの情報伝達会を設ける。
予習	指定されたテキストの箇所を読んでくる。提出物を期限内に提出する。
復習	実習施設に関する提出物ならびにテキストを読み返す。
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵 編著『施設実習パーフェクトガイド』わかば社、2015（変更の可能性あり）
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領。その他、分野別に適宜紹介します。
評価方法・評価基準	<p>レポート（事前訪問・調査）、テキスト試験、受講者の発表、指導案、特別講義レポート、その他調査書や計画書を総合的に評価します。</p> <p>レポート（事前訪問・調査） 25%</p>

	小試験 20% 指導案作成・発表 10% 特別講義レポート等 25% 調査書・計画書等 20%
履修上の注意	児童家庭福祉、社会的養護等の学習に関連づけて、実習施設について集中的に学んでください。 普段から健康管理に気をつけ、部分実習・責任実習に向けて技能をみがいでください。

講義科目名称：保育所実習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Nursery Sch. Teaching Pract. Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
糸洲 理子			
実習			

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育に対する理解を深める。 3. 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験をふまえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、実践、記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確化する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となっていく保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等の連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育，生活や遊びを通して総合的に保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成，実践，観察，記録，評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化
授業の概要	保育実習Ⅰで習得した知識や経験をふまえ、専門科目で学んだ理論を基に、保育所保育士としての知識や指導法を学ぶ。さらに、保育所における子育て支援についての理解を深める。
予習	事前に実習園へ訪問して、子どもたちの様子を確認すること。
復習	毎日の実習をふり返り、翌日の実習に生かす。
テキスト	—
参考書	—
評価方法・評価基準	実習日誌、実習評価、実習レポートで総合的に評価する。
履修上の注意	実習園のオリエンテーションをしっかり受け、実習生としての自覚を持つこと。

講義科目名称：保育所実習指導Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Nurse.Schools Pract. Orientation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択科目
担当教員			
糸洲 理子・山城 眞紀子			
演習			
授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習による総合的な学び <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2. 保育実践力の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの状況に応じた適切なかかわり (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 3. 計画と観察、記録、自己評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4. 保育士の専門性と職業倫理 5. 事後指導における実習の総括と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化 		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前指導では、保育実習に対する理解を深め、有意義な実習となるよう十分な準備をする。実習生としての基本的心がまえをはじめ、実習内容を十分に理解し、自己課題を持って実習に望めるようにする。 2. 事後指導では、実習反省会を行い、実習で得た成果や反省、問題点を出し合い、グループ討議及び全体でまとめをする。また、実習総括と事後評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 		
予習	実習園の概要と実習時期の行事、固定クラスを確認しておくこと。		
復習	講義内容をしっかり復習し、理解を深める。		
テキスト	厚生労働省 2008 『保育所保育指針』 その他、必要な資料は担当者が準備する。		
参考書	その他、必要に応じて紹介する。		
評価方法・評価基準	技能発表、提出物で総合的に評価する。		
履修上の注意	実習指導は、実習の気持ちで身なりを整えて出席すること。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 施設実習の意義・目的を理解し、社会的養護（保育、支援）について総合的に学びます。</p> <p>(2) 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、養護（保育、支援）実践力を培います。</p> <p>(3) 養護（保育、支援）の観察、記録及び自己評価等を踏まえた養護（保育、支援）の改善について実践や事例を通して学びます。</p> <p>(4) 保育士の専門性と職業倫理について理解します。</p> <p>(5) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー施設実習Ⅱとは</p> <p>第2回 実習先希望調査 実習配置先の決定</p> <p>第3回 事前訪問・ボランティア レポート</p> <p>第4回 実習施設に関する調査</p> <p>第5回 実習施設に関する調査 レポート</p> <p>第6回 実習生調査書</p> <p>第7回 実習計画書 実習先地図</p> <p>第8回 実習記録を学ぶ（先輩の日記から）</p> <p>第9回 部分実習発表会</p> <p>第10回 直前の情報伝達会 実習日誌、評価表、出勤簿、実習レポート作成法配布</p> <p>第11回 施設オリエンテーション</p> <p>第12回 実習実施</p> <p>第13回 反省会 実習日誌、実習レポート提出</p> <p>第14回 他施設見学</p> <p>第15回 施設評価票伝達 課題の発見</p> <p>第16回 実習評価のための個人面談</p>
授業の概要	<p>1. 可能であれば、実習施設の見学または1日ボランティアをおこない、レポートし、発表する。</p> <p>2. 実習施設に関する調査レポートを提出し、発表する。理解がゆきとどくまで再提出をおこなう。</p> <p>3. 部分実習・責任実習があることを想定して、準備する。</p> <p>4. 実習生調査書、実習計画書、誓約書等を作成する。</p> <p>5. 施設実習Ⅰに行く下級生に助言を行う。</p> <p>6. 実習に行けなかった近隣施設の見学を行う。</p>
予習	提出物を期限内に提出する。
復習	実習施設に関する提出物ならびにテキストを読み返す
テキスト	守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』わかば社
参考書	分野別に適宜紹介します。
評価方法・評価基準	レポート（事前訪問・実習施設に関する調査）40%、学生調査書・実習計画書10%、部分指導案・責任実習指導案20%、実習報告発表10%、他施設見学レポート20%
履修上の注意	社会福祉、相談援助、社会的養護内容等の学習に関連づけて、実習施設について集中的に学んでください。普段から健康管理に気をつけ、部分実習・責任実習に向けて技能をみがいてください。

講義科目名称：総合表現

授業コード：

英文科目名称：Comprehensive expression and activity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	保育・幼児教育において表現する様々な行為は子どもにとって日常的な活動であり、本来、分断化されない総合的なものであると考えられる。本科目「総合表現」では、上記した問題意識から、まずは身体・音・造形という馴染みある観点を入り口とし、最終的には全てを横断包括する「総合的な表現活動」への認識を高める事を目的とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション-総合表現の意義と目標-	
	第2回	ごっこ遊びから展開される総合表現①-保育園や幼稚園の事例に学びながら、ごっこ遊びを企画する	
	第3回	ごっこ遊びから展開される総合表現②-導入の工夫と展開	
	第4回	ごっこ遊びから展開される総合表現③-より広がりのある活動への展開	
	第5回	ごっこ遊びから展開される総合表現-発表と振り返り	
	第6回	お話から展開される総合表現①（劇遊び）-保育園や幼稚園の事例に学びながら、ごっこ遊びを企画する	
	第7回	お話から展開される総合表現②（劇遊び）-導入の工夫と展開	
	第8回	お話から展開される総合表現③（劇遊び）-より広がりのある活動への展開	
	第9回	お話から展開される総合表現-発表と振り返り	
	第10回	学生の企画から展開される総合表現-企画① 保育園での発表へ向け、立案	
	第11回	学生の企画から展開される総合表現-企画② 発表へ向けた準備：セリフや動き	
	第12回	学生の企画から展開される総合表現-企画③ 発表へ向けた準備：音楽や効果音、楽器などの準備	
	第13回	学生の企画から展開される総合表現-企画④ 発表へ向けた準備：大道具など造形物の準備	
	第14回	学生の企画から展開される総合表現-学内発表	
	第15回	学外発表（幼稚園・保育園）	
	第16回	まとめ・反省	
授業の概要	総合表現という科目は、身体による表現（山城）と音による表現（大山）、造形による表現（佐久本）の教員が三人一組で行い、保育・幼児教育の現場で展開できる「表現」のあり方を演習形式で探っていくものである。概要としては、前半部分で「ごっこ遊び」や「お話」から展開される総合表現活動についての演習を行い、後半では学生自身が総合表現活動を企画・立案する。さらに最終的に学外に赴き、実際に現場において学生自身が活動案を発表し、「表現」活動のありかたを学ぶ。		
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容について知識を確認しておくこと。		
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。		
テキスト	作成資料配布		
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領。その他、分野別に適宜紹介します。		
評価方法・評価基準	演習、受講者の発表、最終発表、受講態度を総合的に評価します。 演習（20%）、発表（20%）、授業態度（20%）、最終発表（40%）		
履修上の注意	場所の移動が考えられるので、事前に告知される準備物に留意すること		

講義科目名称： 幼児の生活

授業コード：

英文科目名称： Life Skill

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
島袋浩子・照屋建太			

授業のテーマ及び到達目標	『私達の暮らしと保育』を考え、社会人として、保育者としてのマナーを身につける。さらに、子どもの生活習慣の自立について学ぶ。知識理解として幼児期の基本的な生活習慣について理解する。乳幼児期の発達と生活技能について関心を持つ。また、自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。		
授業計画	第1回	講義概要説明、幼児の基本的な生活習慣について考える	
	第2回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」①食事の習慣	
	第3回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」②睡眠の習慣	
	第4回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」③排泄の習慣	
	第5回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」④着脱衣の習慣	
	第6回	乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」⑤清潔の習慣	
	第7回	乳幼児期の子どもの生活 「社会的な生活習慣」	
	第8回	常識マナー・保育現場での心構え	
	第9回	はさみや箸の持ち方等	
	第10回	課題発表	
	第11回	園だより・学級だよりの作成	
	第12回	折り紙の魅力について	
	第13回	廃品を利用した製作①	
	第14回	廃品を利用した製作②	
	第15回	伝承遊び	
	第16回	定期試験	
授業の概要	子ども自身が、人間として生きる力の基礎を育むための指導者としての在り方を学ぶ。社会人としてのマナー・保育者としての技能・子どもの生活技能などについて理論や実技等事例を通して学んでいく。		
予習	講義前に予告したテキスト部分を読み、理解しておく。		
復習	講義の中で話した内容や実践を復習し、理解をさらに深めること。		
テキスト	谷田貝公昭 監修『6歳までのしつけと子どもの自立』合同出版		
参考書	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説書 その他、必要に応じて紹介する。		
評価方法・評価基準	期末試験および小テスト、授業中に出すレポート課題、受講態度、演習、受講者の発表による総合評価 総合評価（成績）＝期末試験（40％）＋小テスト・課題（30％）＋受講態度（15％）＋演習（10％）＋受講の発表（5％）		
履修上の注意	課題の提出については、様式と期限を守ること。		

講義科目名称：視聴覚教育

授業コード：

英文科目名称：Audio Visual Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
真栄城 かの子			

授業のテーマ及び到達目標	視聴覚教材について理解を深め、自ら表現できるようにする。教育・保育現場で自信を持って子どもに接し場面に応じた教材の活用ができるようにする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 児童文化とは何か</p> <p>第2回 ペープサートについて 年少向け作品①</p> <p>第3回 ペープサート制作 年少向け作品①</p> <p>第4回 作品実践発表（ペープサート）</p> <p>第5回 絵本について（特性と読み聞かせ実演）</p> <p>第6回 絵芝居について（特性と演じ方実演）</p> <p>第7回 軍手人形をつくろう 年少向け作品②</p> <p>第8回 作品実践発表（軍手人形）</p> <p>第9回 パネルシアターとエプロンシアターについて（特性と演じ方実演）</p> <p>第10回 パネルシアターとエプロンシアターについて</p> <p>第11回 作品実践発表（パネルシアター）</p> <p>第12回 エプロンシアター制作 年長向け作品③</p> <p>第13回 エプロンシアター制作 年長向け作品③</p> <p>第14回 作品実践発表（エプロンシアター）</p> <p>第15回 身近な素材を使って楽しい劇遊び まとめと作品提出</p>
授業の概要	保育における「視聴覚教材」の意義について理解する。幼児の豊かな感性を育むための教材をいくつか取りあげ、製作をとおして保育技術を習得する。また実践発表を経験することで表現者としての素養を身につける。
予習	配布資料を読み、内容を理解しておく。多くの絵本を読み、発表や制作の内容を考え準備する
復習	授業の内容を振り返り、理解を深める。制作については期日内に作品を完成させ、実演の練習を行う
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「ことばと表現力を育む児童文化」（勝泰介ほか編、萌文書材） 「演習児童文化」（小川清美編、萌文書材）
評価方法・評価基準	授業への参加度・受講態度・提出物・製作作品(ディスプレイを含む4点)課題発表等を総合的に評価する。視聴覚教材60% 視聴覚教材づくり20% 受講者の作品発表10% 課題10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：子どもの保健 I

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
笹良 秀美			

授業のテーマ及び到達目標	子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
授業計画	<p>第1回 小児保健の意義</p> <p>第2回 小児の発達・発育（小児の成長）・健康の概念と子どもの健康</p> <p>第3回 小児の発達・発育（身体の計測・身体発育の評価）成長に及ぼす因子</p> <p>第4回 小児の発達・発育（身体発育の評価）脳、感覚器、運動機能</p> <p>第5回 小児の発達・発育（演習）</p> <p>第6回 小児の発達・発育（小児の発達Ⅰ）</p> <p>第7回 小児の発達・発育（小児の発達Ⅱ 運動機能・子どもの姿勢）</p> <p>第8回 小児の発達・発育（小児の発達Ⅲ 精神発達）</p> <p>第9回 小児の発達・発育（生理機能Ⅰ 体温調節・呼吸・循環・消化吸収）</p> <p>第10回 小児の発達・発育（生理機能Ⅱ 排泄・水分代謝・免疫・睡眠）</p> <p>第11回 小児の発達・発育（新生児）</p> <p>第12回 小児の栄養（母乳栄養を中心に）</p> <p>第13回 小児の栄養（乳幼児の食生活と健康）</p> <p>第14回 小児保健行政・母子保健対策 地域における保健活動</p> <p>第15回 幼児期の性の健康教育</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。</p> <p>2. 保育者として、子どものもっている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。</p>
予習	教科書を事前に読み、分からない語句等は調べておく
復習	レジュメ及び教科書を再度読みかえす
テキスト	わかりやすい小児保健 同文書院
参考書	特になし
評価方法・評価基準	試験：80% レポート：10% 授業態度：10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：子どもの保健Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
笹良 秀美			

授業のテーマ及び到達目標	I 子どもの心身の健康を守り、育てるための科学としての知識・技術を学ぶ。 II 健全な成長を量るうえで必要な疾病や事故、その予防や防止についての知識を学ぶ。		
授業計画	第1回 はじめに・・・ 講義に望む心構え／講義内容について 第2回 小児の主な病気・・・ 小児の病気の特徴／先天異常 DVD鑑賞（レポート提出） 第3回 小児の主な病気・・・ 感染する病気 ①ウイルス感染症 第4回 小児の主な病気・・・ 感染する病気 ②細菌感染症／その他の感染症 感染症の予防と対策 第5回 沐浴の演習 第6回 小児の主な病気：呼吸器系／循環器系の病気 第7回 小児の主な病気：消化器系／血液の病気／小児がん 第8回 小児の主な病気：腎臓・泌尿器・性器の病気 第9回 小児の主な病気：アレルギー／神経系及び精神心理系の病気 第10回 小児の主な病気：皮膚／骨・関節・筋肉／眼・耳・鼻・口・歯の病気 第11回 小児の主な病気：子どもの精神保健～心のケア～① 第12回 小児の主な病気：子どもの精神保健～心のケア～② 第13回 子どもの精神保健／子どもの心の健康とその課題 グループワーク 第14回 子どもの精神保健 ～虐待について～ グループワーク 第15回 まとめ 第16回 定期試験		
授業の概要	小児疾患、看護について学び、保育士に必要な知識、養育力を養う。		
予習	教科書を事前に読み、分からない語句等は調べておく。		
復習	レジュメ、教科書を再度読みかえす。		
テキスト	「わかりやすい小児保健」 西村昂三編著 同文書院		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	期末試験：80% レポート：10% 授業態度：10%		
履修上の注意	特になし		

講義科目名称：子どもの保健Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：Health Care for Infants Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
笹良 秀美			

授業のテーマ及び到達目標	① 子どもの保健Ⅰの理論をふまえ、子どもの健康・安全の捉え方及び成長発達に応じた計画・指導・方法について具体的に学び、実践できる能力を習熟する。 ② 現代社会における子どもや子どもの家族などの心の健康問題について理解し、実際の関わり方の考え方やその方法について学ぶ
授業計画	<p>第1回 はじめに 授業のこころがまえ／ 講義内容</p> <p>第2回 演習① 手洗いの実習 保育者にとっての手洗いの意義 抱っこの実習 月齢に応じた方法</p> <p>第3回 演習② 子どもの発育を知ろう 身体計測（頭囲・胸囲・体重・身長）</p> <p>第4回 演習③ おむつ交換／着替えの方法 紙おむつと布おむつ、衣服の選び方</p> <p>第5回 演習④ 沐浴の演習</p> <p>第6回 演習⑤ 歯磨きの演習 指導法を考えて実践してみよう①</p> <p>第7回 演習⑤ 歯磨きの演習 指導法を考えて実践してみよう②</p> <p>第8回 演習⑥ 保育における看護 グループワーク</p> <p>第9回 演習⑦ 保育における看護 発表</p> <p>第10回 よく起こる事故について知ろう DVD鑑賞</p> <p>第11回 演習⑧ 子どもに起きやすい事故 グループワーク（家庭内・園内の事故）</p> <p>第12回 演習⑨ 子どもに起きやすい事故の応急処置 止血法、包帯法</p> <p>第13回 演習⑩ 子どもの生活習慣について考えてみよう I</p> <p>第14回 演習⑪ 子どもの生活習慣について考えてみよう II</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	小児保健の基本的知識・技術を習得し、実践活動ができる保育能力を養う。
予習	演習内容箇所を事前に読んで理解しておく
復習	習得した技術内容をより理解し、応用できるように努めること
テキスト	子どもの保健演習ノート 診断と治療社
参考書	兼松百合子・遠藤巴子編著『小児保健実習 保育と保健・看護の視点から』同文書院 跡見一子編著『小児保健実習』建帛社 高内正子編著『小児保健実習』保育出版社 千羽喜代子・吉岡毅・長谷川浩道『実習育児学』日本小児医事出版社 母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所編『最新乳幼児保育指針』日本小児医事出版社
評価方法・評価基準	期末試験：50% レポート：20% 発表：10% 演習：20%
履修上の注意	（提出物）H29・1月まで『保健だより』各レポート（指定）

講義科目名称：保育者論

授業コード：

英文科目名称：Nursery Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
糸洲 理子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：保育者の役割と倫理、制度的位置づけについて理解する。 関心意欲：保育者の専門職的成長について関心を持つ。 思考判断：保育者の専門性について考察し、理解する。 態度：保育者の協働について理解する。
授業計画	<p>第1回 「保育者になる」ということ</p> <p>第2回 保育者の役割</p> <p>第3回 保育者に求められる倫理</p> <p>第4回 保育者の制度的位置づけ</p> <p>第5回 子ども理解</p> <p>第6回 保育者の専門性①（養護と教育）</p> <p>第7回 保育者の専門性②（資質・能力）</p> <p>第8回 保育者の専門性③（知識・技術及び判断）</p> <p>第9回 保育の省察</p> <p>第10回 保育課程・教育課程による保育の展開と自己評価</p> <p>第11回 保育と保護者支援に関わる協働</p> <p>第12回 専門職間及び専門機関との連携</p> <p>第13回 保護者及び地域社会との協働</p> <p>第14回 多様な保育ニーズ</p> <p>第15回 保育者の専門職的成長</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	保育を営む際、保育者の役割は重要である。本科目では、保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて理解して、自らの保育者像を明確にする。また、保育者の資質・能力、保育者の専門性について理解し、保育者の協働、関係機関との連携のあり方、保育問題などについても理解を深める。
予習	シラバスを確認して、教科書の該当箇所を事前に読むこと。わからない用語は調べること。
復習	授業で学習した箇所の要点を整理して理解すること。
テキスト	汐見稔幸・大豆生田啓友編 2016（第2版） 『最新保育講座② 保育者論』 ミネルヴァ書房
参考書	厚生労働省 2008年 『保育所保育指針』 文部科学省 2008年 『幼稚園教育要領』 内閣府 2014年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法・評価基準	試験50%、レポート30%、受講態度20%で、総合的に評価する。
履修上の注意	講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。提出物の期限を厳守すること。